

第3章 地域別構想

1 地域区分

地域区分は、都市の生い立ち（市町村合併等の経緯）や市街地の形成過程など、その地域が形成されるに至った歴史的な背景を重視し、14に区分します。さらに、拠点の位置づけや居住地の特性、公共交通を中心とした地域間の連携などを考慮し7つの地域にまとめます。

	対象地域	将来都市構造における位置づけ	
		都市拠点	
地域1	①本庁：宮西、貴船、神山、大志、向山、富士	都市拠点	一宮駅周辺
		レクリエーション拠点	九品地公園 平島公園
		歴史文化拠点	真清田神社
地域2	②尾西北部：起、小信中島、三条、開明 ③尾西南部：大徳、朝日	副次的都市拠点	尾西庁舎周辺
		地域生活拠点	尾西南部公民館周辺
		産業拠点	工業専用地域周辺
		レクリエーション拠点	富田山公園
		歴史文化拠点	一宮市尾西歴史民俗資料館
地域3	④葉栗 ⑤北方町 ⑥木曾川町	副次的都市拠点	木曾川駅周辺
		地域生活拠点	葉栗出張所周辺 北方町出張所周辺
		産業拠点	一宮木曾川 IC 周辺
		レクリエーション拠点	木曾川緑地公園 138 タワーパーク 光明寺公園
地域4	⑦丹陽町	地域生活拠点	丹陽町出張所周辺
		産業拠点	尾張一宮 PA 周辺
地域5	⑧今伊勢町 ⑨奥町	地域生活拠点	今伊勢町出張所周辺 奥町出張所周辺
		レクリエーション拠点	木曾川緑地 奥町公園
地域6	⑩大和町 ⑪萩原町	地域生活拠点	大和町出張所周辺 萩原町出張所周辺
		産業拠点	一宮稻沢北 IC 周辺 萩原工業団地周辺
		レクリエーション拠点	萬葉公園
		歴史文化拠点	妙興寺、一宮市博物館、萩原商店街
地域7	⑫西成 ⑬浅井町 ⑭千秋町	地域生活拠点	西成出張所周辺 浅井町出張所周辺 千秋町出張所周辺
		レクリエーション拠点	一宮総合運動場 浅井山公園・大野極楽寺公園
		産業拠点	尾張一宮 PA 周辺

■ 地域区分



凡 例

<ゾーン>	<拠点>	<ネットワーク>
<ul style="list-style-type: none"> 都市居住ゾーン 田園環境共生ゾーン 工業集積ゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> 都市拠点 副次的都市拠点 地域生活拠点 産業拠点 レクリエーション拠点(大規模公園緑地等) 歴史文化拠点 	<p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域幹線道路 (計画路線調査区間) 幹線道路 <p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道 主要バス <p>水と緑のネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市と歴史のネットワーク

2 地域別構想

(1) 地域1：本庁(宮西・貴船・神山・大志・向山・富士)

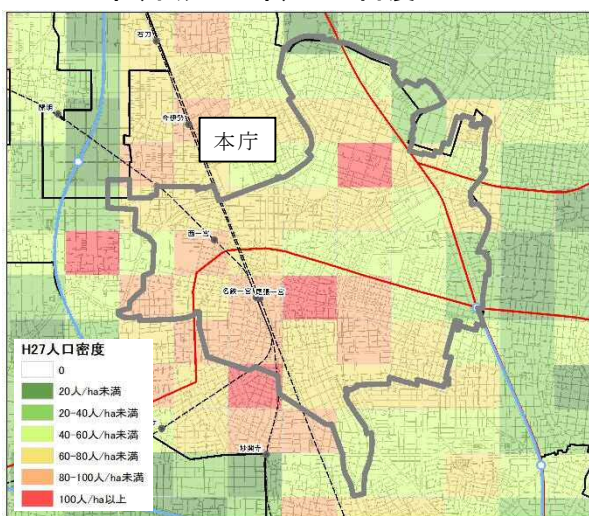
① 地域の現状

■ 人口動向

○ 2005年(平成17年)から2015年(平成27年)で総人口は約1,800人増加しています。

○ 年少人口や生産年齢人口は減少傾向にあるものの、他地域に比較して減少率は小さく、人口密度は66.1人/haと本市で最も高くなっています。

■ 2015年(平成27年)人口密度



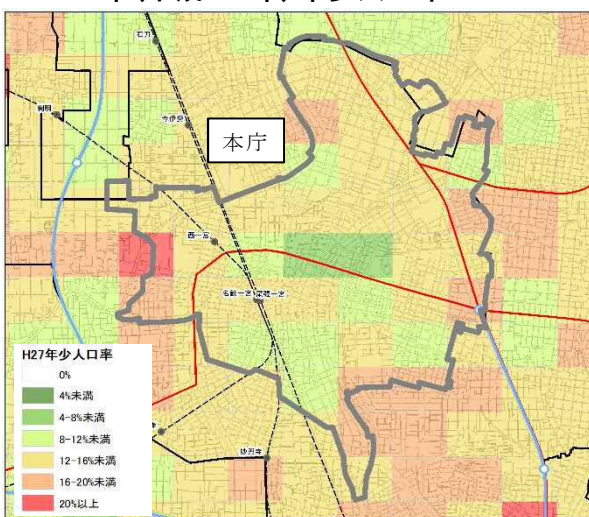
■ 2005年(平成17年)・2015年(平成27年)の人口動向

面積 936.6ha		2005 (H17)	2015 (H27)	増減数	増減率
総人口		60,114	61,943	1,829	103.0%
年少人口	割合	8,941	8,539	-402	95.5%
割合	地域1	14.9%	13.8%	-	-
	市平均	15.3%	13.9%	-	-
生産年齢人口	割合	39,541	38,253	-1,288	96.7%
割合	地域1	65.8%	61.8%	-	-
	市平均	66.3%	59.8%	-	-
老年人口	割合	11,512	14,565	3,053	126.5%
割合	地域1	19.2%	23.5%	-	-
	市平均	18.3%	25.5%	-	-
人口密度	地域1	64.2	66.1	-	-
	市平均	32.3	33.1	-	-

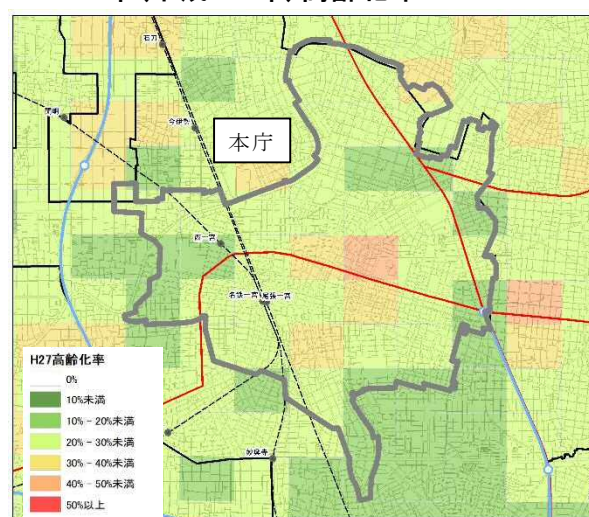
※ 総人口は年齢不詳を含む

※ 国勢調査の小地域別人口を基に算出(一部地域で秘匿値あり)

■ 2015年(平成27年)年少人口率



■ 2015年(平成27年)高齢化率



資料：国勢調査

■市民アンケートからみた地域の魅力と問題点

【地域の魅力】

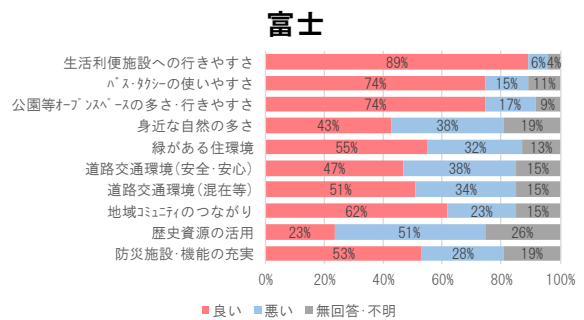
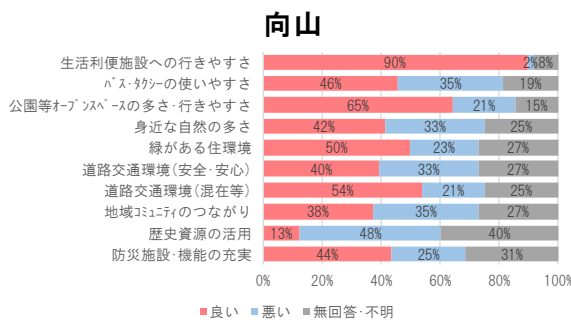
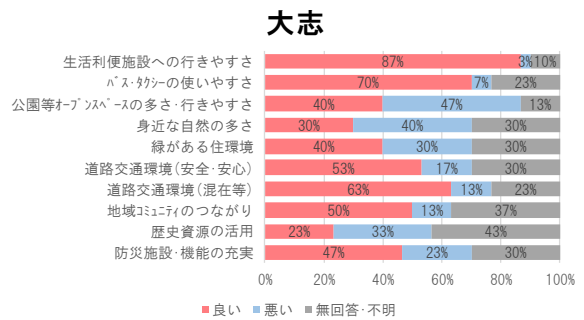
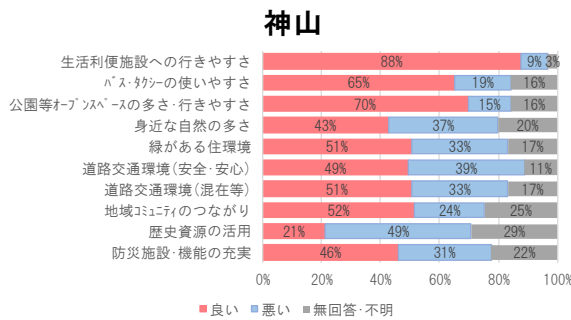
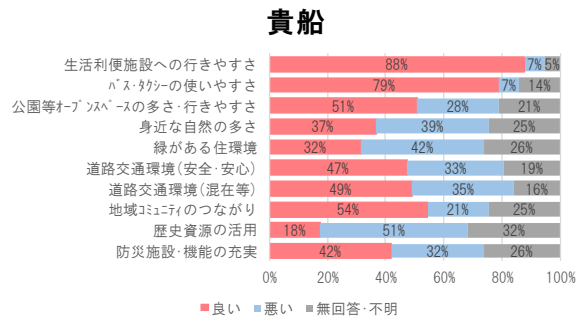
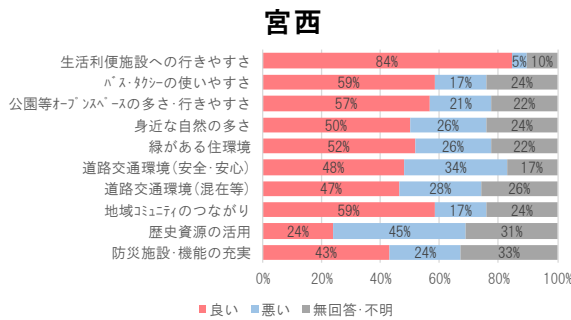
- 広域的な都市機能から日常生活に必要な機能まで多様な施設が集積していることから、「生活利便施設への行きやすさ」に関する評価が高くなっています。
- 一宮駅を中心とした放射状のバス路線網が形成され、市内各地を結んでいることから、「バス・タクシーの使いやすさ」に関する評価が高くなっています。

【地域の問題点】

- 都市的土地利用※の割合が高い地域であることから、他地域に比べると「身近な自然の多さ」に関する評価が低くなっています。

■地域1（本庁）全体のアンケート結果

		良い	悪い	無回答・不明
生活利便施設への行きやすさ	地域1	88%	6%	6%
	市平均	62%	25%	13%
バス・タクシーの使いやすさ	地域1	65%	17%	17%
	市平均	37%	45%	18%
公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ	地域1	61%	22%	16%
	市平均	42%	38%	20%
身近な自然の多さ	地域1	42%	35%	23%
	市平均	54%	24%	22%
緑がある住環境	地域1	47%	31%	22%
	市平均	45%	31%	24%
道路交通環境（安全・安心）	地域1	47%	34%	18%
	市平均	45%	35%	20%
道路交通環境（混在等）	地域1	51%	29%	20%
	市平均	50%	28%	21%
地域コミュニティのつながり	地域1	53%	23%	25%
	市平均	52%	24%	24%
歴史資源の活用	地域1	20%	47%	32%
	市平均	19%	51%	30%
防災施設・機能の充実	地域1	46%	28%	26%
	市平均	39%	34%	27%



資料：「都市計画マスタープラン」「立地適正化計画」策定に向けたアンケート調査（2018.2）

②地域の現状やアンケート調査などからみた地域の主要課題

現状	主要課題
<ul style="list-style-type: none">● 人口は2005年から2015年では増加傾向にありますが、将来的には減少傾向に転じる見込みです。● 広域的な都市機能から日常生活に必要な機能まで多様な施設が集積していることから、「生活利便施設への行きやすさ」に関する評価が高くなっています。● 一宮駅周辺での従業者数の減少が大きく、商業・業務機能の空洞化が進行しています。● 空き地や平面駐車場などの低未利用地が多く見られます。	空洞化した商業・業務機能の回復とともに、人口密度の維持により、地域活力の向上を図ることが必要です。
<ul style="list-style-type: none">● 一宮駅を中心とした放射状のバス路線網が形成され、市内各地を結んでいることから、「バス・タクシーの使いやすさ」に関する評価が高くなっています。● 本地域を含め、市全体として少子高齢化が進行しています。	市全体に広がる公共交通ネットワークの核としての利便性を維持し、誰もが安全・安心に移動できる都市空間づくりが必要です。
<ul style="list-style-type: none">● 都市的土地利用の割合が高い地域であることから、他地域に比べると「身近な自然の多さ」に関する評価が低くなっています。● 杜の宮市など、市民グループが主体となった活動が広がっています。	真清田神社をはじめとした地域資源をより身近なものとして感じられるよう、有効活用していくことが必要です。
<ul style="list-style-type: none">● 理論上最大モデルの地震における液状化危険度は、地域南部で極めて高いと予測されています。● 100年に1回程度発生する確率の大雨による木曾川及び日光川・新川の洪水などによる浸水が予測され、特に地域北部で深く浸水するとされています。	地震や河川氾濫による災害リスクがある地域であり、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を強化していくことが必要です。また、面的な基盤整備が行われていない地域においては、安全性や防災性の向上が必要です。

③まちづくりの基本方針

【まちづくりの方向性】

本市の中心部に位置する本地域は、一宮駅を核として、尾張地域の中核都市である本市の「顔」となるにぎわいあふれるまちづくりを進めていきます。

■「持続可能で安全・安心な都市構造の構築」に向けて

○都市拠点である一宮駅周辺において、土地の高度利用を図ることによりまちなか居住を促進します。

■「都市機能の集積による拠点の強化」に向けて

○本市の活力を支える中心拠点として、商業機能をはじめとした多様な都市機能の集積を図ります。

○公共交通ネットワークの維持・充実による各地域の拠点へのアクセス性向上を図ります。

○空き家や空き店舗などの既存ストックの活用を図ります。

■「誰もが豊かに暮らし続けることができる生活環境の確保」に向けて

○日常生活に必要な都市機能の充実とともに、歩いて暮らせるまちづくりを目指します。

○自転車、歩行者交通の利便性向上と、緑や河川、歴史資源を活かした歩きたくなる環境づくりを図ります。

■「愛着と誇りの持てる地域文化の形成と継承」に向けて

○市民や地域などとの協働により、真清田神社などの歴史・文化的資源の活用を図ります。

○中心市街地におけるにぎわいの創出につながるまちづくり活動を支援します。

【まちづくりの方針】**本庁****土地利用・市街地整備の方針**

- 都市拠点周辺では、立地適正化計画制度などの活用により、商業機能や子育て支援機能などの多様な都市機能の集積を図ります。
- 中心市街地における空き店舗や低未利用地の有効利用を促進します。
- 中心市街地において土地の高度利用を促進するため、指定容積率の見直し、高度利用地区や再開発等促進区などの指定を検討します。
- 商業機能の集積及びまちなか居住の促進に向け、低層階に商業機能、中高層階に業務機能や居住機能を持った複合施設の立地誘導を図ります。
- 名岐道路の沿線地区において、ストック効果※を活かした土地利用を検討します。

道路・公共交通などの方針

- 歩きやすい環境づくりや自転車走行環境の改善に向け、歩道のバリアフリー化を進めるとともに、一宮市自転車活用推進計画に基づく自転車専用通行帯の整備などを進めます。
- 公共交通によるアクセス性向上に向け、本地域を中心とした放射型の公共交通ネットワークの維持・充実を図るとともに、バス運行情報の提供などにより利用を促進します。
- 駅前のメイン通りである銀座通りについては、景観に配慮した再整備を進めます。
- 北尾張中央道、国道22号及び一宮各務原線の無電柱化を促進します。

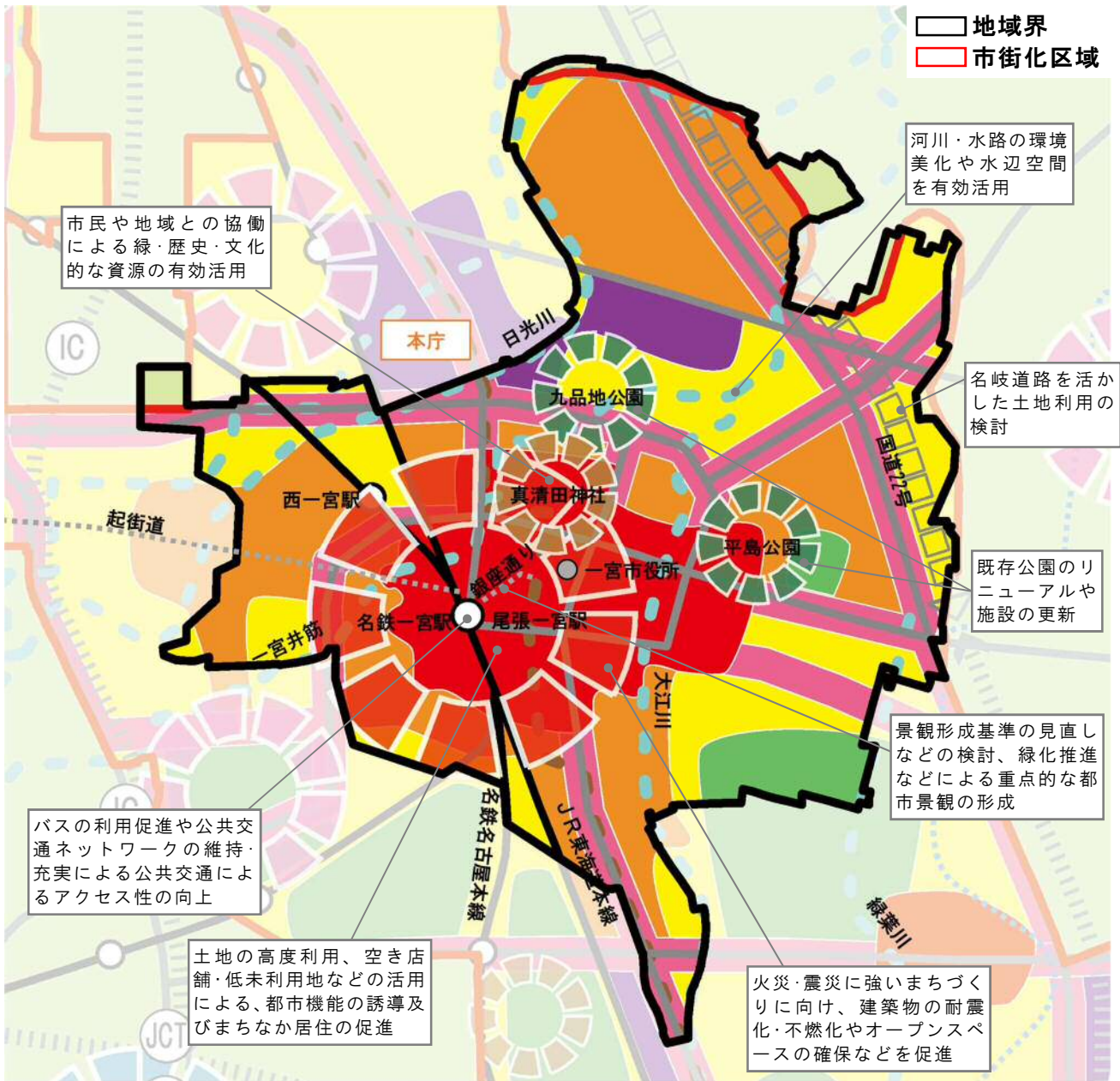
緑・景観・環境の方針

- 幹線道路における緑の再生を進めます。
- 銀座通り沿線においては、重点的な都市景観の形成に向け、景観形成基準などの見直しを検討するとともに、オープンスペースなどのゆとりある空間づくり、緑化を推進します。
- 市民や地域との協働により、真清田神社周辺における緑・歴史・文化的な資源の有効活用を図ります。
- 大江川などの河川・水路の環境美化や水辺空間の有効活用を図ります。
- レクリエーション機能の向上のため、既存公園のリニューアルや施設の更新を進めます。

都市防災の方針

- 火災・震災に強いまちづくりに向け、建築物の耐震化・不燃化やオープンスペースの確保などを促進します。
- 面的未整備地区における防災性・安全性の向上に向けて、狭あい道路の解消を検討します。
- 震災に強いまちづくりに向け、下水道幹線管路などの耐震化を進めます。
- 浸水リスクの低減に向け、貯留施設の整備を進めます。
- 緊急輸送道路沿道の建築物などの耐震化を促進します。
- ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。

【まちづくりの方針図】



<土地利用の方針>	<拠点>	<ネットワーク>
<ul style="list-style-type: none"> 専用住宅地 住宅地 住商混合地 住工混合地 商業業務地 沿道複合地 専用工業地 工業地 集落地・農用地 	<ul style="list-style-type: none"> 都市拠点 副次的都市拠点 地域生活拠点 産業拠点 レクリエーション拠点(大規模公園緑地等) 歴史文化拠点 	<p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域幹線道路 (計画路線調査区間) (計画路線) 幹線道路 <p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道 <p>水と緑のネットワーク</p> <p>都市と歴史のネットワーク</p>

(2) 地域2：尾西北部（起・小信中島・三条・開明）、尾西南部（大徳・朝日）

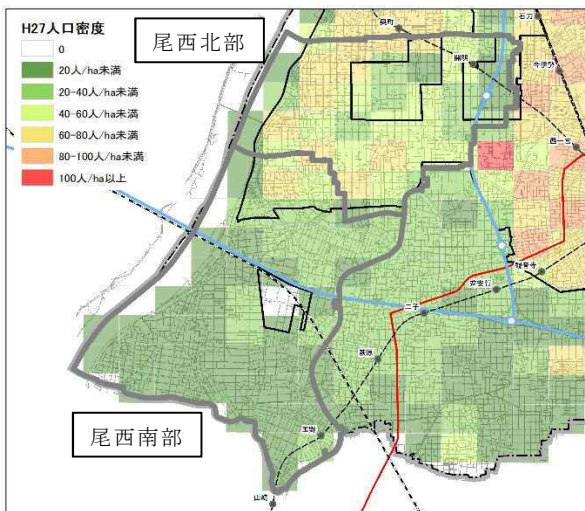
① 地域の現状

■ 人口動向

○ 2005年(平成17年)から2015年(平成27年)で総人口は約200人減少しています。

○ 高齢化率は26.9%と市平均よりも高く、特に尾西南部における少子高齢化の進行が顕著となっています。

■ 2015年(平成27年)人口密度



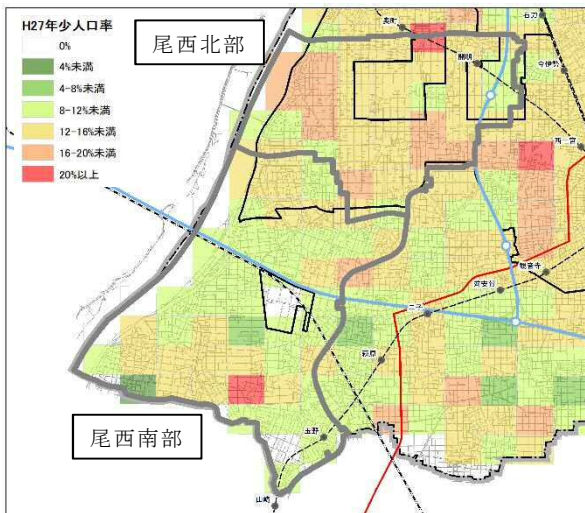
■ 2005年(平成17年)・2015年(平成27年)の人口動向

面積	2005 (H17)		2015 (H27)		増減数	増減率
総人口	58,391		58,194		-197	99.7%
年少人口	8,994		7,811		-1,183	86.8%
	割合	地域2 15.4%	地域2 13.4%	-	-	-
生産年齢人口	38,136		34,273		-3,863	89.9%
	割合	地域2 65.3%	地域2 58.9%	-	-	-
老年人口	11,261		15,638		4,377	138.9%
	割合	地域2 19.3%	地域2 26.9%	-	-	-
人口密度	26.2		26.1		-	-
	割合	地域2 32.3%	地域2 33.1%	-	-	-

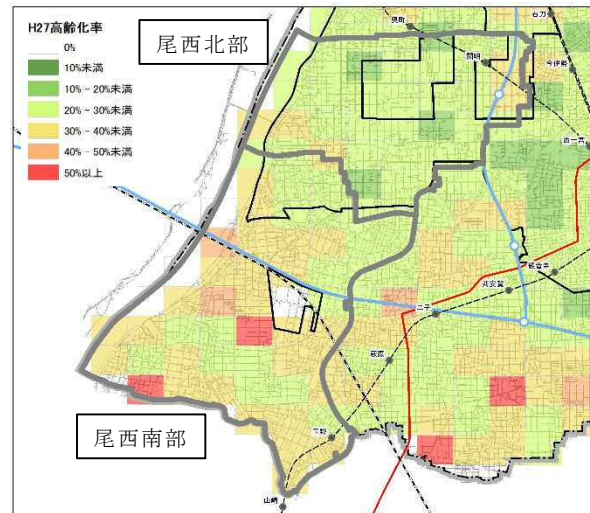
※総人口は年齢不詳を含む

※国勢調査の小地域別人口を基に算出（一部地域で秘匿値あり）

■ 2015年(平成27年)年少人口率



■ 2015年(平成27年)高齢化率



資料：国勢調査

■市民アンケートからみた地域の魅力と問題点

【地域の魅力】

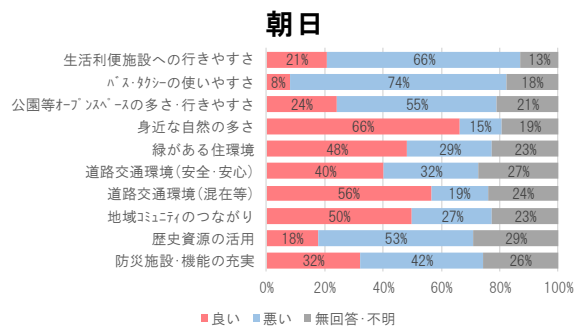
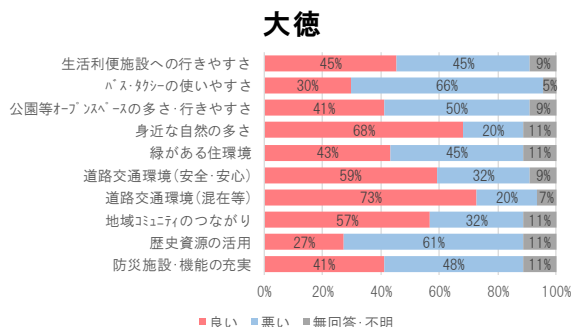
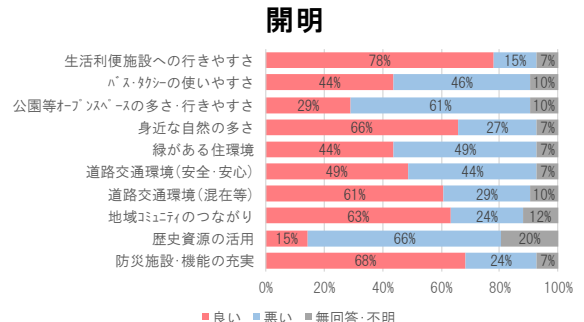
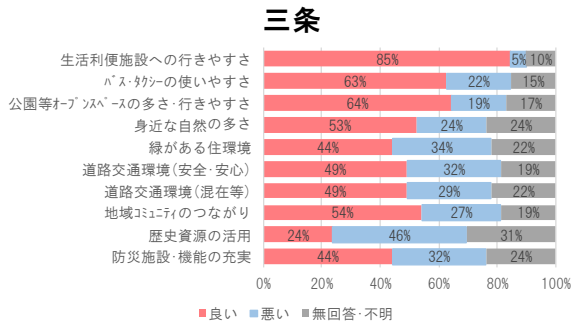
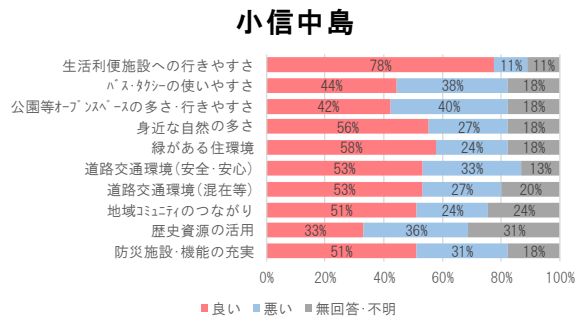
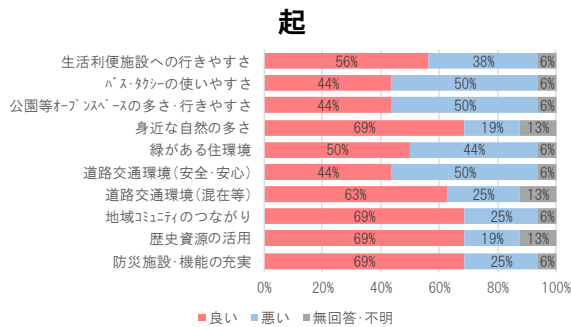
- 木曽川に隣接した地域であり、「身近な自然の多さ」に関する評価が高くなっています。
- 尾西北部では尾西庁舎周辺などに都市機能が集積しており、「生活利便施設への行きやすさ」に関する評価が高くなっています。

【地域の問題点】

- 木曽川に隣接した地域であり、富田山公園などを有していますが、開明や朝日では「公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ」に関する評価が低くなっています。
- 尾西南部ではバスの運行本数が少ない地域のため、「バス・タクシーの使いやすさ」に関する評価が低くなっています。

■地域2（尾西北部・南部）全体のアンケート結果

		良い	悪い	無回答・不明
生活利便施設への行きやすさ	地域2	60%	30%	10%
	市平均	62%	25%	13%
バス・タクシーの使いやすさ	地域2	37%	49%	13%
	市平均	37%	45%	18%
公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ	地域2	41%	44%	15%
	市平均	42%	38%	20%
身近な自然の多さ	地域2	62%	22%	16%
	市平均	54%	24%	22%
緑がある住環境	地域2	48%	36%	16%
	市平均	45%	31%	24%
道路交通環境(安全・安心)	地域2	49%	35%	16%
	市平均	45%	35%	20%
道路交通環境(混在等)	地域2	58%	25%	17%
	市平均	50%	28%	21%
地域コミュニティのつながり	地域2	55%	27%	18%
	市平均	52%	24%	24%
歴史資源の活用	地域2	26%	50%	24%
	市平均	19%	51%	30%
防災施設・機能の充実	地域2	47%	35%	18%
	市平均	39%	34%	27%



資料：「都市計画マスタープラン」「立地適正化計画」策定に向けたアンケート調査（2018.2）

②地域の現状やアンケート調査などからみた地域の主要課題

現状	主要課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 尾西北部では尾西庁舎周辺などに都市機能が集積しており、「生活利便施設への行きやすさ」に関する評価が高くなっています。 ● 尾西南部ではバスの運行本数が少ない地域のため、「バス・タクシーの使いやすさ」に関する評価が低くなっています。 	<p>バスを中心とした公共交通ネットワークの維持とともに、都市機能の集積による日常生活の利便性を確保していくことが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口は2005年から2015年で減少傾向にあります。 ● 特に、市街化調整区域における少子高齢化の進行が顕著に見られます。 ● 木曾川に隣接した地域であり、「身近な自然の多さ」に関する評価が高くなっています。 	<p>農地や自然環境などとの調和のとれた、ゆとりある良好な居住環境を維持していくことが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 伝統的地場産業として繊維産業が栄えたため、のこぎり屋根などが生活に身近な地域資源となっていますが、繊維産業は縮小傾向となっています。 	<p>縮小する繊維産業の振興、景観資源としての活用が必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 理論上最大モデルの地震における液状化危険度は、地域の広い範囲で極めて高いと予測されています。 ● 100年に1回程度発生する確率の大雨による木曾川及び日光川の洪水などによる浸水が予測され、特に尾西北部で深く浸水するとされています。 	<p>地震や河川氾濫による災害リスクの高い地域であり、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を強化していくことが必要です。</p>

③まちづくりの基本方針

【まちづくりの方向性】

本市の西南部に位置する本地域は、美濃路とその宿場である起などの多様な歴史的資源を持つ地域であり、また、尾西庁舎周辺は、副次的都市拠点として位置づけられていることから、都市機能の集積と公共交通の充実を図る一方、歴史あるまちなみや南部に広がる田園地帯は、本地域の活かすべき資源としてとらえ、保全を進めていきます。

■「持続可能で安全・安心な都市構造の構築」に向けて

- 起街道沿いのバス交通を軸とした暮らしやすい居住環境の形成を図ります。
- 南部の田園環境を活かし、暮らしやすい環境の保全を図ります。
- 木曽川の浸水などの災害危険性に対し、ハード・ソフト両面からの防災・減災対策を強化します。

■「都市機能の集積による拠点の強化」に向けて

- 副次的都市拠点である尾西庁舎周辺において、起街道沿いのバス交通の利便性を活かし、都市機能の集積を図ります。
- 尾西南部公民館周辺において、日常生活に必要な都市機能の確保により、地域コミュニティの維持を図ります。
- 南部の工業団地周辺において、周辺環境と調和した産業拠点としての機能増進を図ります。

■「誰もが豊かに暮らし続けることができる生活環境の確保」に向けて

- 伝統的な地場産業の工業施設から住居系土地利用への転換が進む地域における良好な居住環境の保全を図ります。
- 南部に広がる一団性の高い農用地のスプロール的市街化を抑制するとともに、農業の担い手確保などの施策と連携した環境保全を図ります。
- 木曽川などの主要な河川・水路や公園緑地を活かした水と緑のネットワークの形成を図ります。

■「愛着と誇りの持てる地域文化の形成と継承」に向けて

- 美濃路沿いの歴史的資源を活用した地域交流を促進します。

【まちづくりの方針】

尾西北部

土地利用・市街地整備の方針

- 尾西庁舎周辺地区では、立地適正化計画制度などの活用により、商業機能や子育て支援機能などの多様な都市機能の集積を図ります。
- 利便性の高いバス路線である起街道沿いを中心に、居住機能の立地誘導を図ります。
- 工業系用途地域の区域において、工業施設が減少し、住宅の立地が進んでいる地域においては、良好な居住環境の形成に向け、用途地域の見直し、特別用途地区※や地区計画制度の活用を検討します。
- 地区中央における市街化調整区域の農地については、緑の中庭、貴重なオープンスペースとして保全を図ります。
- 鉄道駅周辺地区の市街化調整区域において、市街化区域への編入の検討や、地区計画制度を活用した良好な居住環境の形成を推進します。

道路・公共交通などの方針

- 尾張地域の骨格となる北尾張中央道の整備を促進します。
- バス運行情報の提供などにより利用を促進し、起街道をはじめとした路線バス及びコミュニティバスの維持を図ります。

緑・景観・環境の方針

- 繊維産業のまちの面影を残すのこぎり屋根工場や蔵などの外観を活かした地域の魅力向上に向け、工場のリノベーションを推進します。
- 本地域の特色ある景観資源を活かした歩きたくなるまちの形成に向け、起地区の美濃路と尾西緑道に沿った歴史的なまちなみの保全を図ります。
- 本地域の歴史や文化に関する情報発信や、広域的な交流促進に向け、歴史民俗資料館を活用するとともに、美濃路などの歴史資源を安全に利活用できる環境整備を検討します。
- 木曾川、野府川など、主要な河川・水路の環境美化や水辺空間の有効活用を図ります。
- ミズベリング138による木曾川の水辺空間の活用により、にぎわいの創出を図ります。
- レクリエーション機能の向上のため、既存公園の施設の更新を進めます。

都市防災の方針

- 河川氾濫などによる浸水リスクの低減に向け、木曾川の堤防整備を促進するとともに、排水路の改修を進めます。
- 火災・震災に強いまちづくりに向け、建築物の耐震化・不燃化やオープンスペースの確保などを促進します。
- 貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全を図ります。
- 緊急輸送道路沿道の建築物など耐震化を促進します。
- ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。

尾西南部

土地利用・市街地整備の方針

- 尾西南部公民館周辺地区では、地区計画制度などの活用により、地域の交流・憩いの場として、都市機能の維持・充実を図ります。
- 産業拠点における既存の工業団地隣接地区において、周辺環境に配慮した産業施設の立地誘導を図ります。
- 鉄道駅周辺地区において、地区計画制度を活用した良好な居住環境の形成を推進します。
- 集落地におけるゆとりある居住環境の形成に向け、一団のまとまりのある農地を保全するとともに、地区計画制度の活用による良好な居住環境と景観の保全を図ります。
- 新濃尾大橋（仮称）の架橋によるストック効果を活かした土地利用を検討します。

道路・公共交通などの方針

- 尾張地域の骨格となる北尾張中央道の整備を促進します。
- 都市間交通の円滑な処理に向け、萩原祐久線の整備を促進します。
- バス運行情報の提供などにより利用を促進し、路線バス及びコミュニティバスの維持を図ります。

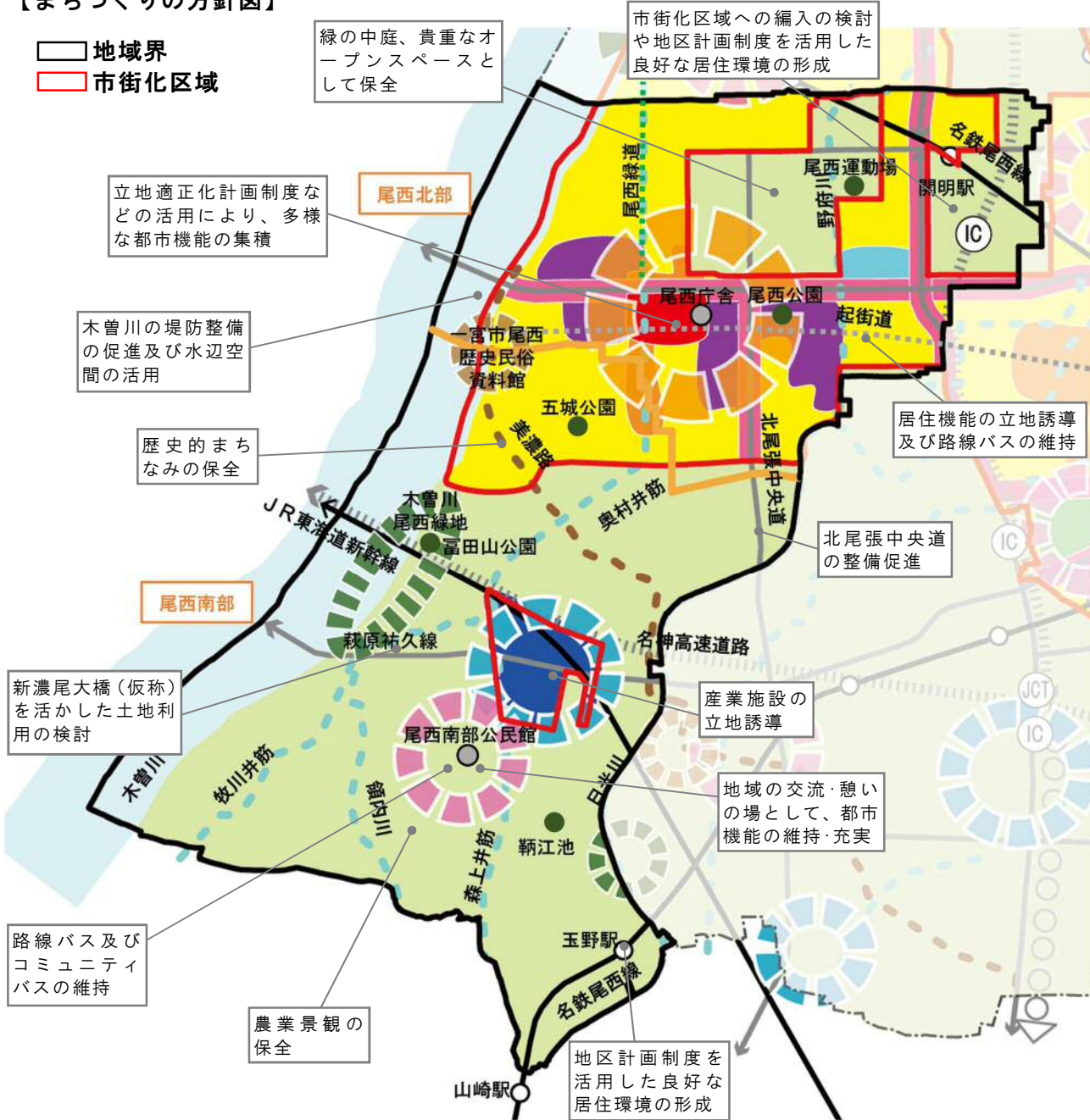
緑・景観・環境の方針

- 本地域の特色ある景観資源を活かした歩きたくなるまちの形成に向け、木曾川からみる遠景眺望の保全を図ります。
- 田園地域の広がりある農業景観の保全を図ります。
- 木曾川、日光川など、主要な河川・水路及び池沼の環境美化や水辺空間の有効活用を図ります。
- ミズベリング138による木曾川の水辺空間の活用により、にぎわいの創出を図ります。
- 公共下水道計画区域において未整備区域の整備を進めます。
- 木曾川沿線において、サイクリングロードの整備を進めます。
- 富田山公園においては、民間活力を活かした再整備を検討します。
- レクリエーション機能の向上のため、既存公園の施設の更新を進めます。

都市防災の方針

- 浸水リスクの低減に向け、排水路の改修を進めます。
- 貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全を図ります。
- 緊急輸送道路沿道の建築物などの耐震化を促進します。
- ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。

【まちづくりの方針図】



<土地利用の方針>	<拠点>	<ネットワーク>
<ul style="list-style-type: none"> 専用住宅地 住宅地 住商混合地 住工混合地 商業業務地 沿道複合地 専用工業地 工業地 集落地・農用地 	<ul style="list-style-type: none"> 都市拠点 副次的都市拠点 地域生活拠点 産業拠点 レクリエーション拠点(大規模公園緑地等) 歴史文化拠点 	<p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域幹線道路 (計画路線調査区間) (計画路線) 幹線道路 <p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道 水と緑のネットワーク 都市と歴史のネットワーク

(3) 地域3：葉栗・北方町・木曾川町

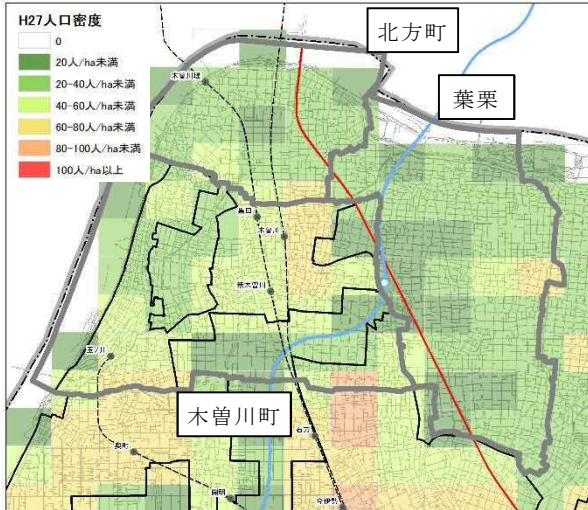
① 地域の現状

■ 人口動向

○ 2005年(平成17年)から2015年(平成27年)で総人口は約800人増加しています。

○ 年少人口や生産年齢人口は減少傾向にあり、高齢化率は26.3%と市平均よりも高くなっています。

■ 2015年(平成27年)人口密度



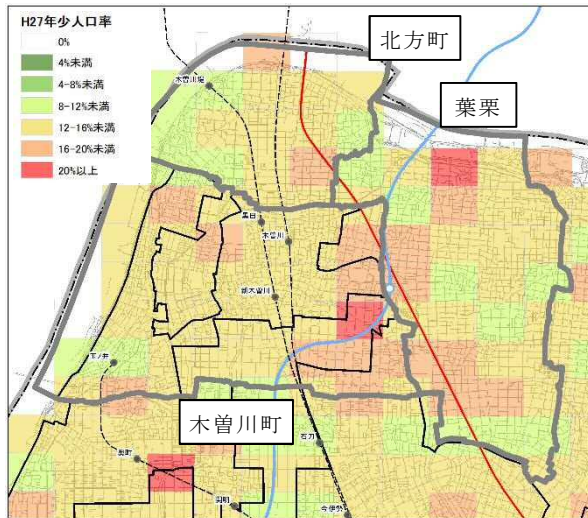
■ 2005年(平成17年)・2015年(平成27年)の人口動向

面積	2005 (H17)	2015 (H27)	増減数	増減率	
総人口	58,993	59,806	813	101.4%	
年少人口	9,046	8,367	-679	92.5%	
割合	地域3	15.3%	14.0%	-	-
割合	市平均	15.3%	13.9%	-	-
生産年齢人口	38,990	35,247	-3,743	90.4%	
割合	地域3	66.1%	58.9%	-	-
割合	市平均	66.3%	59.8%	-	-
老年人口	10,954	15,716	4,762	143.5%	
割合	地域3	18.6%	26.3%	-	-
割合	市平均	18.3%	25.5%	-	-
人口密度	地域3	27.2	27.5	-	-
人口密度	市平均	32.3	33.1	-	-

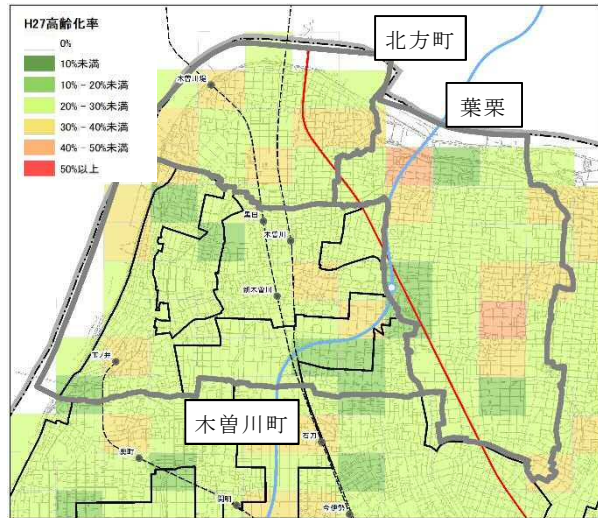
※ 総人口は年齢不詳を含む

※ 国勢調査の小地域別人口を基に算出(一部地域で秘匿値あり)

■ 2015年(平成27年)年少人口率



■ 2015年(平成27年)高齢化率



資料：国勢調査

■市民アンケートからみた地域の魅力と問題点

【地域の魅力】

- 鉄道駅周辺を中心に都市機能が集積し、大規模商業施設も多いことから北方町や木曽川町では「生活利便施設への行きやすさ」に関する評価が高くなっています。
- 地域北・西部の外周が木曽川に接し、その雄大な自然環境や眺望から「身近な自然の多さ」や「緑がある住環境」に関する評価が高くなっています。

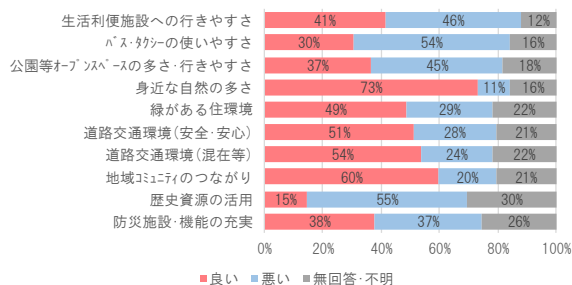
【地域の問題点】

- 木曽川駅や一宮駅方面へのバスが運行しているものの、運行本数は30本/日未満と少ないことから「バス・タクシーの使いやすさ」に関する評価が低くなっています。
- 木曽川に隣接した地域であり、木曽川緑地公園などを有しますが、地域内の公園が少ないことから「公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ」に関する評価が低くなっています。

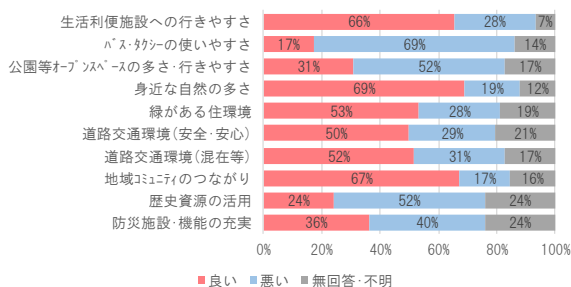
■地域3（葉栗・北方町・木曽川町）全体のアンケート結果

		良い	悪い	無回答・不明
生活利便施設への行きやすさ	地域3	60%	26%	14%
	市平均	62%	25%	13%
バス・タクシーの使いやすさ	地域3	24%	55%	21%
	市平均	37%	45%	18%
公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ	地域3	31%	45%	24%
	市平均	42%	38%	20%
身近な自然の多さ	地域3	63%	15%	22%
	市平均	54%	24%	22%
緑がある住環境	地域3	46%	28%	27%
	市平均	45%	31%	24%
道路交通環境(安全・安心)	地域3	46%	30%	23%
	市平均	45%	35%	20%
道路交通環境(混在等)	地域3	51%	27%	22%
	市平均	50%	28%	21%
地域コミュニティのつながり	地域3	54%	21%	25%
	市平均	52%	24%	24%
歴史資源の活用	地域3	18%	49%	33%
	市平均	19%	51%	30%
防災施設・機能の充実	地域3	36%	36%	28%
	市平均	39%	34%	27%

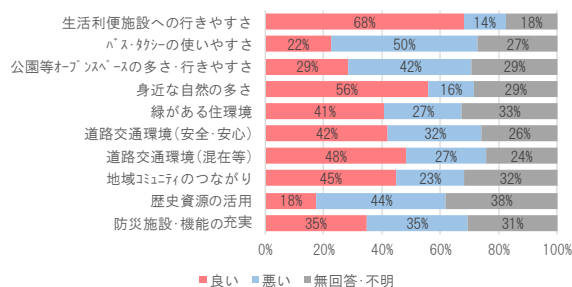
葉栗



北方町



木曽川町



資料：「都市計画マスタープラン」「立地適正化計画」策定に向けたアンケート調査（2018.2）

②地域の現状やアンケート調査などからみた地域の主要課題

現状	主要課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道駅周辺を中心とした都市機能の集積や、大規模商業施設に対して暮らしやすいと感じている市民が多く見られます。 ● 基幹産業である繊維工業は低迷し、食料品製造業などが増加傾向にあるなど、産業構造の変化が見られます。 	<p>鉄道駅やインターチェンジの利便性を活かした商業や産業の拠点形成により、地域の活性化を図っていくことが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 人口は2005年から2015年では増加傾向にありますが、将来的には減少傾向に転じる見込みです。 ● 木曽川周辺の雄大な自然環境や眺望から「身近な自然の多さ」や「緑のある住環境」に関する評価が高くなっています。 	<p>農地や自然環境などとの調和のとれた、ゆとりある良好な居住環境を維持していくことが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 木曽川緑地公園などを有していますが、地域内の公園が少ないことから「公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ」に関する評価が低くなっています。 ● ミズベリング138など、木曽川における水辺の新しい活用方法の検討や実践に向けた取組が進んでいます。 	<p>木曽川の水辺空間のさらなる活用に向けた景観保全や環境整備を図っていくことが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 理論上最大モデルの地震における液状化危険度は、地域中西部で極めて高いと予測されています。 ● 100年に1回程度発生する確率の大雨による木曽川及び日光川の洪水などによる浸水が予測され、特に地域中央部での深く浸水するとされています。 	<p>地震や河川氾濫による災害リスクの高い地域であり、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を強化していくことが必要です。</p>

③まちづくりの基本方針

【まちづくりの方向性】

本市の北部に位置する本地域は、北側と西側で木曽川に接する自然豊かな地域であり、また、木曽川駅周辺は、副次的都市拠点として位置づけられていることから、木曽川の自然環境・眺望景観の魅力や、鉄道を主とする公共交通の利便性を活かした、北部地域の拠点にふさわしいまちづくりを進めていきます。

■「持続可能で安全・安心な都市構造の構築」に向けて

- 木曽川に隣接した自然の豊かさを活かし、ゆとりある居住環境の形成を図ります。
- 木曽川の浸水などの災害危険性に対し、ハード・ソフト両面からの防災・減災対策を強化します。

■「都市機能の集積による拠点の強化」に向けて

- 副次的都市拠点である木曽川駅周辺において、交通利便性の高さを活かし、都市機能の集積を図ります。
- 2つの地域生活拠点において、日常生活に必要な都市機能の確保により、地域コミュニティの維持を図ります。
- 一宮木曽川インターチェンジに近接した地区において、周辺環境と調和した産業拠点の形成を図ります。

■「誰もが豊かに暮らし続けることができる生活環境の確保」に向けて

- 木曽川をはじめとした河川環境の整備、優良農用地などの保全を図ります。

■「愛着と誇りの持てる地域文化の形成と継承」に向けて

- 木曽川の自然環境や眺望景観、木曽川堤桜などの歴史文化資源を活用した地域交流を促進します。

【まちづくりの方針】

葉栗	
土地利用・市街地整備の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○葉栗出張所周辺地区では、地区計画制度などの活用により、地域の交流・憩いの場として、都市機能の維持・充実を図ります。 ○一宮木曾川インターチェンジ周辺地区において、周辺環境に配慮した産業施設の立地誘導を図ります。 ○集落地におけるゆとりある居住環境の形成に向け、一団のまとまりのある農地を保全するとともに、地区計画制度の活用による良好な居住環境と景観の保全を図ります。 ○名岐道路の沿線地区において、ストック効果を活かした土地利用を検討します。
道路・公共交通などの方針	<ul style="list-style-type: none"> ○バス運行情報の提供などにより利用を促進し、路線バス及びコミュニティバスの維持を図ります。
緑・景観・環境の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○本地域の特色ある景観資源を活かした歩きたくなるまちの形成に向け、木曾川の水辺環境や木曾川堤桜をはじめとした木曾川の眺望景観の保全を図ります。 ○田園地域の広がりのある農業景観の保全を図ります。 ○木曾川、野府川など、主要な河川・水路の環境美化や水辺空間の有効活用を図ります。 ○ミズベリング138による木曾川の水辺空間の活用により、にぎわいの創出を図ります。 ○レクリエーション機能の向上のため、既存公園の施設の更新を進めます。
都市防災の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全を図ります。 ○緊急輸送道路沿道の建築物などの耐震化を促進します。 ○緊急輸送道路における橋梁の耐震化を検討します。 ○ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。

北方町

土地利用・市街地整備の方針

- 北方町出張所周辺地区では、地区計画制度などの活用により、地域の交流・憩いの場として、都市機能の維持・充実を図ります。
- 鉄道駅周辺地区において、地区計画制度を活用した良好な居住環境の形成を推進します。
- 集落地におけるゆとりある居住環境の形成に向け、一団のまとまりのある農地を保全するとともに、地区計画制度の活用による良好な居住環境と景観の保全を図ります。

道路・公共交通などの方針

- 木曽川のレクリエーション的利用において交通結節点となる木曽川堤駅について、イベントと連携した利用を促進します。
- バス運行情報の提供などにより利用を促進し、コミュニティバスの維持を図ります。

緑・景観・環境の方針

- 本地域の特色ある景観資源や歴史資源を活かした歩きたくなるまちの形成に向け、木曽川の水と河畔林などからなる水辺景観や木曽川堤桜をはじめとした木曽川の眺望景観の保全を図ります。
- 田園地域の広がりある農業景観の保全を図ります。
- 木曽川など、主要な河川・水路の環境美化や水辺空間の有効活用を図ります。
- ミズベリング138による木曽川の水辺空間の活用により、にぎわいの創出を図ります。
- 公共下水道計画区域において未整備区域の整備を進めます。
- レクリエーション機能の向上のため、既存公園の施設の更新を進めます。

都市防災の方針

- 貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全を図ります。
- 緊急輸送道路沿道の建築物などの耐震化を促進します。
- ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。

木曾川町

土地利用・市街地整備の方針

- 木曾川駅周辺地区では、立地適正化計画制度などの活用により、商業機能や子育て支援機能などの多様な都市機能の集積を図るとともに、居住機能の立地誘導を図ります。
- 一宮木曾川インターチェンジ周辺地区において、周辺環境に配慮した産業施設の立地誘導を図ります。
- 工業系用途地域の区域において、工業施設が減少し、住宅の立地が進んでいる地域においては、良好な居住環境の形成に向け、用途地域の見直し、特別用途地区や地区計画制度の活用を検討します。
- 鉄道駅周辺地区の市街化調整区域において、市街化区域編入の検討や、地区計画制度を活用した良好な居住環境の形成を推進します。
- 市街化調整区域の農地については、貴重なオープンスペースとして保全を図ります。

道路・公共交通などの方針

- バス運行情報の提供などにより利用を促進し、路線バス及びコミュニティバスの維持を図ります。

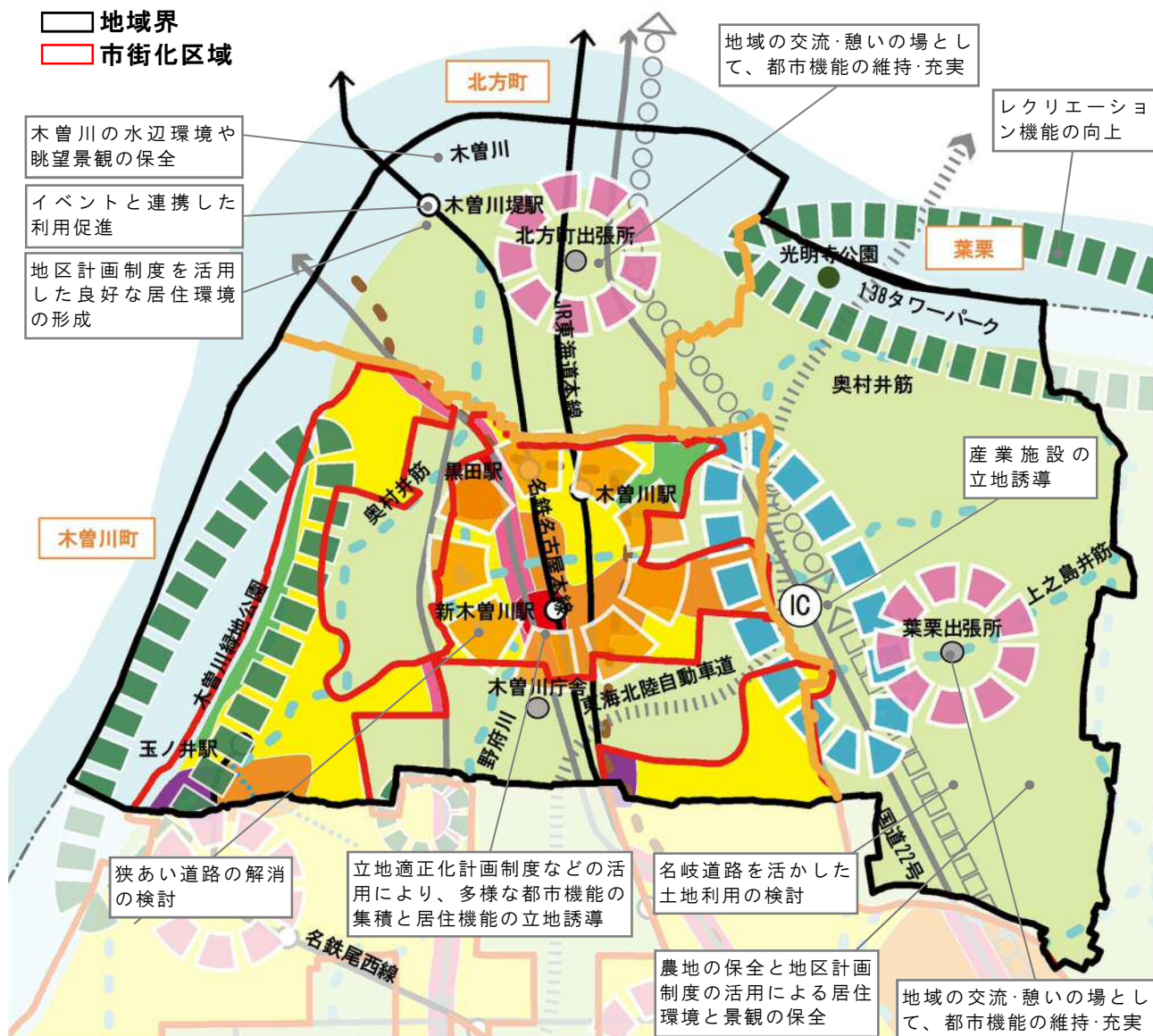
緑・景観・環境の方針

- 本地域の特色ある景観資源を活かした歩きたくなるまちの形成に向け、奥村井筋及びその沿道に残る歴史的な繊維産業のまちなみ、木曾川の眺望景観の保全を図ります。
- 木曾川、野府川など、主要な河川・水路の環境美化や水辺空間の有効活用を図ります。
- ミズベリング138による木曾川の水辺空間の活用により、にぎわいの創出を図ります。
- 公共下水道計画区域において未整備区域の整備を進めます。
- 木曾川沿線において、サイクリングロードの整備を進めます。
- レクリエーション機能の向上のため、既存公園の施設の更新を進めます。

都市防災の方針

- 河川氾濫などによる浸水リスクの低減に向け、日光川2号放水路の整備を促進します。
- 火災・震災に強いまちづくりに向け、建築物の耐震化・不燃化やオープンスペースの確保などを促進します。
- 面的未整備地区における防災性・安全性の向上に向けて、狭あい道路の解消を検討します。
- 貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全を図ります。
- 緊急輸送道路沿道の建築物などの耐震化を促進します。
- ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。

【まちづくりの方針図】



＜土地利用の方針＞	＜拠点＞	＜ネットワーク＞
<ul style="list-style-type: none"> 専用住宅地 住宅地 住商混合地 住工混合地 商業業務地 沿道複合地 専用工業地 工業地 集落地・農用地 	<ul style="list-style-type: none"> 都市拠点 副次的都市拠点 地域生活拠点 産業拠点 レクリエーション拠点(大規模公園緑地等) 歴史文化拠点 	<p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域幹線道路 (計画路線調査区間) (計画路線) 幹線道路 <p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道 <p>ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 水と緑のネットワーク 都市と歴史のネットワーク

(4) 地域4：丹陽町

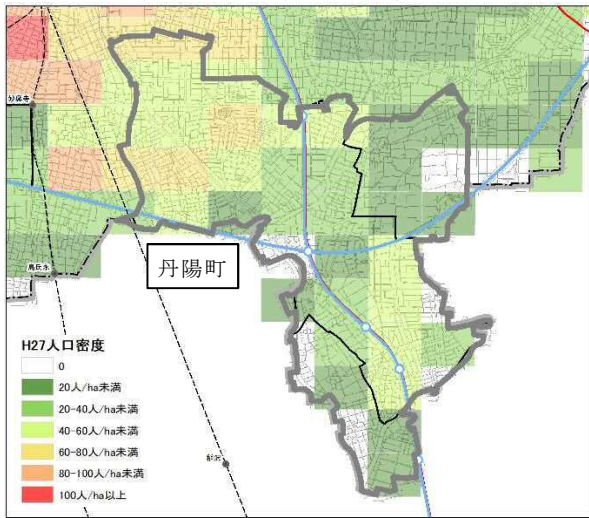
① 地域の現状

■ 人口動向

○2005年(平成17年)から2015年(平成27年)で総人口は約3,700人増加しており、市内において最も伸び率が高くなっています。

○土地区画整理事業により子育て世代の転入が多いことから、年少人口、生産年齢人口が市内で唯一増加しています。

■ 2015年(平成27年)人口密度



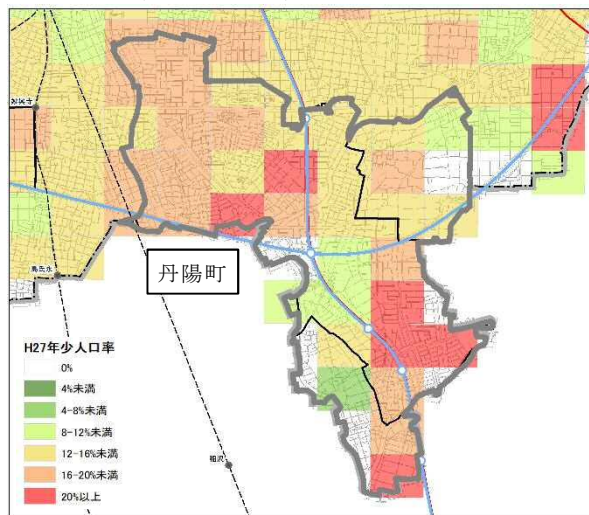
■ 2005年(平成17年)・2015年(平成27年)の人口動向

面積	2005 (H17)		2015 (H27)		増減数	増減率
総人口	24,304		28,010		3,706	115.2%
年少人口	4,209		4,684		475	111.3%
	割合	地域4	17.3%	16.7%	-	-
		市平均	15.3%	13.9%	-	-
生産年齢人口	16,861		17,734		873	105.2%
	割合	地域4	69.4%	63.3%	-	-
		市平均	66.3%	59.8%	-	-
老年人口	3,152		5,291		2,139	167.9%
	割合	地域4	13.0%	18.9%	-	-
		市平均	18.3%	25.5%	-	-
人口密度	地域4		31.2		-	-
		市平均	32.3		-	-

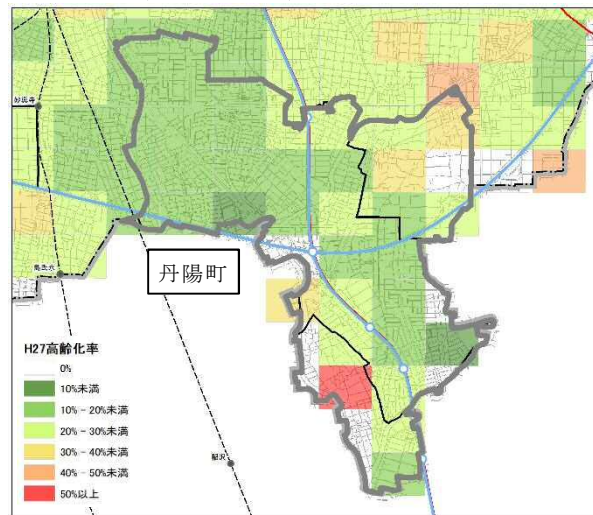
※総人口は年齢不詳を含む

※国勢調査の小地域別人口を基に算出(一部地域で秘匿値あり)

■ 2015年(平成27年)年少人口率



■ 2015年(平成27年)高齢化率



資料：国勢調査

■市民アンケートからみた地域の魅力と問題点

【地域の魅力】

○土地区画整理事業に伴い公園や緑道が整備されており、また、生産緑地や郊外の田園など多くの緑地や農地を有することから、「公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ」、「緑がある住環境」に関する評価が高くなっています。

【地域の問題点】

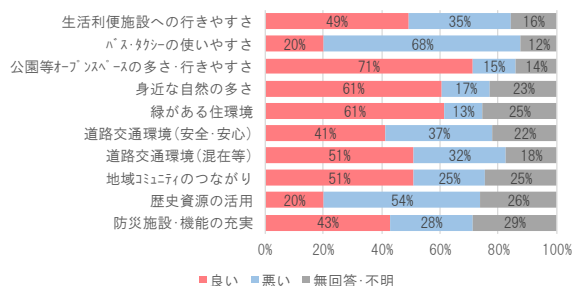
○バスは一宮駅方面への1路線のみであり、運行本数も少ないため、「バス・タクシーの使いやすさ」に関する評価が低くなっています。

○北部は比較的多様な生活利便施設が立地していますが、南部では不足する機能も見られることから、他地域に比べると「生活利便施設への行きやすさ」に関する評価が低くなっています。

■地域4（丹陽）全体のアンケート結果

		良い	悪い	無回答・不明
生活利便施設への行きやすさ	地域4	49%	35%	16%
	市平均	62%	25%	13%
バス・タクシーの使いやすさ	地域4	20%	68%	12%
	市平均	37%	45%	18%
公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ	地域4	71%	15%	14%
	市平均	42%	38%	20%
身近な自然の多さ	地域4	61%	17%	23%
	市平均	54%	24%	22%
緑がある住環境	地域4	61%	13%	25%
	市平均	45%	31%	24%
道路交通環境(安全・安心)	地域4	41%	37%	22%
	市平均	45%	35%	20%
道路交通環境(混在等)	地域4	51%	32%	18%
	市平均	50%	28%	21%
地域コミュニティのつながり	地域4	51%	25%	25%
	市平均	52%	24%	24%
歴史資源の活用	地域4	20%	54%	26%
	市平均	19%	51%	30%
防災施設・機能の充実	地域4	43%	28%	29%
	市平均	39%	34%	27%

丹陽



資料：「都市計画マスタープラン」「立地適正化計画」策定に向けたアンケート調査（2018.2）

②地域の現状やアンケート調査などからみた地域の主要課題

現状	主要課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 2005年から2015年で総人口は約3,700人増加しており、市内において最も伸び率が高くなっています。 ● 土地区画整理事業により子育て世代の転入が多いことから、年少人口、生産年齢人口が市内で唯一増加しています。 	<p>今後も人口増加が見込まれる地域であることから、子育て世代や高齢者などのニーズに配慮した生活環境の整備が必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 南部では都市機能の不足が見られ、他地域に比べると「生活利便施設への行きやすさ」に関する評価が低くなっています。 ● バスは一宮駅方面への1路線のみであり、運行本数も少ないため、「バス・タクシーの使いやすさ」に関する評価が低くなっています。 	<p>公共交通の利便性の向上とともに、安全・安心に移動できる都市空間づくりが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 土地区画整理事業に伴い公園や緑道が整備されており、また、生産緑地や郊外の田園など多くの緑地や農地を有することから、「公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ」、「緑のある住環境」に関する評価が高くなっています。 	<p>一宮インターチェンジ東側の地域においては、農地や自然環境と調和のとれた産業集積を図ることが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 理論上最大モデルの地震における液状化危険度は、地域の広い範囲で極めて高いと予測されています。 ● 100年に1回程度発生する確率の大雨による日光川及び新川の洪水などによる浸水が予測されており、特に地域南部で深く浸水するとされています。 	<p>地震や河川氾濫による災害リスクがある地域であり、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を強化していくことが必要です。</p>

③まちづくりの基本方針

【まちづくりの方向性】

本市の南東部に位置する本地域は、名神高速道路における一宮インターチェンジが名古屋高速、国道22号と接続し、自動車交通における本市の南の玄関口として位置づけられることから、土地区画整理事業による都市基盤整備が整った居住環境を活かすとともに、バス交通による公共交通の利便性を確保し、暮らしやすいまちづくりを進めていきます。

■「持続可能で安全・安心な都市構造の構築」に向けて

○地域生活拠点である丹陽町出張所周辺において、災害に強く安全性の高い市街地形成を図ります。

■「都市機能の集積による拠点の強化」に向けて

○地域生活拠点である丹陽町出張所周辺において、市南部のにぎわいの核を目指し、都市機能の充実、多様化を図ります。

○広域交流の促進、産業振興や地域活性化を図るため、尾張一宮パーキングエリアにスマートインターチェンジの設置を検討します。

○尾張一宮パーキングエリア周辺において、スマートインターチェンジを活用した土地区画整理事業などの面的基盤整備により、産業や交流機能の立地誘導を図ります。

○スマートインターチェンジ周辺において、ストック効果を活用した中継物流施設の立地を検討します。

■「誰もが豊かに暮らし続けることができる生活環境の確保」に向けて

○土地区画整理事業により人口増加が見込まれる地域であることから、今後の人口動向を踏まえた公共交通サービスの見直し・充実を図ります。

■「愛着と誇りの持てる地域文化の形成と継承」に向けて

○産業拠点において、島畑をはじめとした産業景観の調和や継承を図ります。

【まちづくりの方針】

丹陽町

土地利用・市街地整備の方針

- 丹陽町出張所周辺地区では、市南部のにぎわいの核を目指し、立地適正化計画制度などの活用により、商業機能や子育て支援機能などの多様な都市機能の集積を図ります。
- 尾張一宮パーキングエリア周辺において、スマートインターチェンジを活用した土地区画整理事業などの面的基盤整備により、産業や交流機能の立地誘導を図ります。
- スマートインターチェンジ周辺において、ストック効果を活用した中継物流施設の立地を検討します。
- 工業系用途地域の区域において、工業施設が減少し、住宅の立地が進んでいる地域においては、良好な居住環境の形成に向け、用途地域の見直し、特別用途地区や地区計画制度の活用を検討します。
- 外崎地区において、土地区画整理事業による面的基盤整備を行い、良好な居住環境の形成を図ります。

道路・公共交通などの方針

- 都市間交通の円滑な処理や、地区内の交通安全性の向上に向け、萩原多気線の整備を促進します。
- 歩きやすい環境づくりや自転車走行環境の改善に向け、歩道のバリアフリー化を進めるとともに、一宮市自転車活用推進計画に基づく自転車専用通行帯の整備などを進めます。
- バス運行情報の提供などにより利用を促進し、路線バスの維持を図るとともに、将来の人口動向を踏まえ、公共交通機関の充実・利便性向上を検討します。
- 国道22号の無電柱化を促進します。

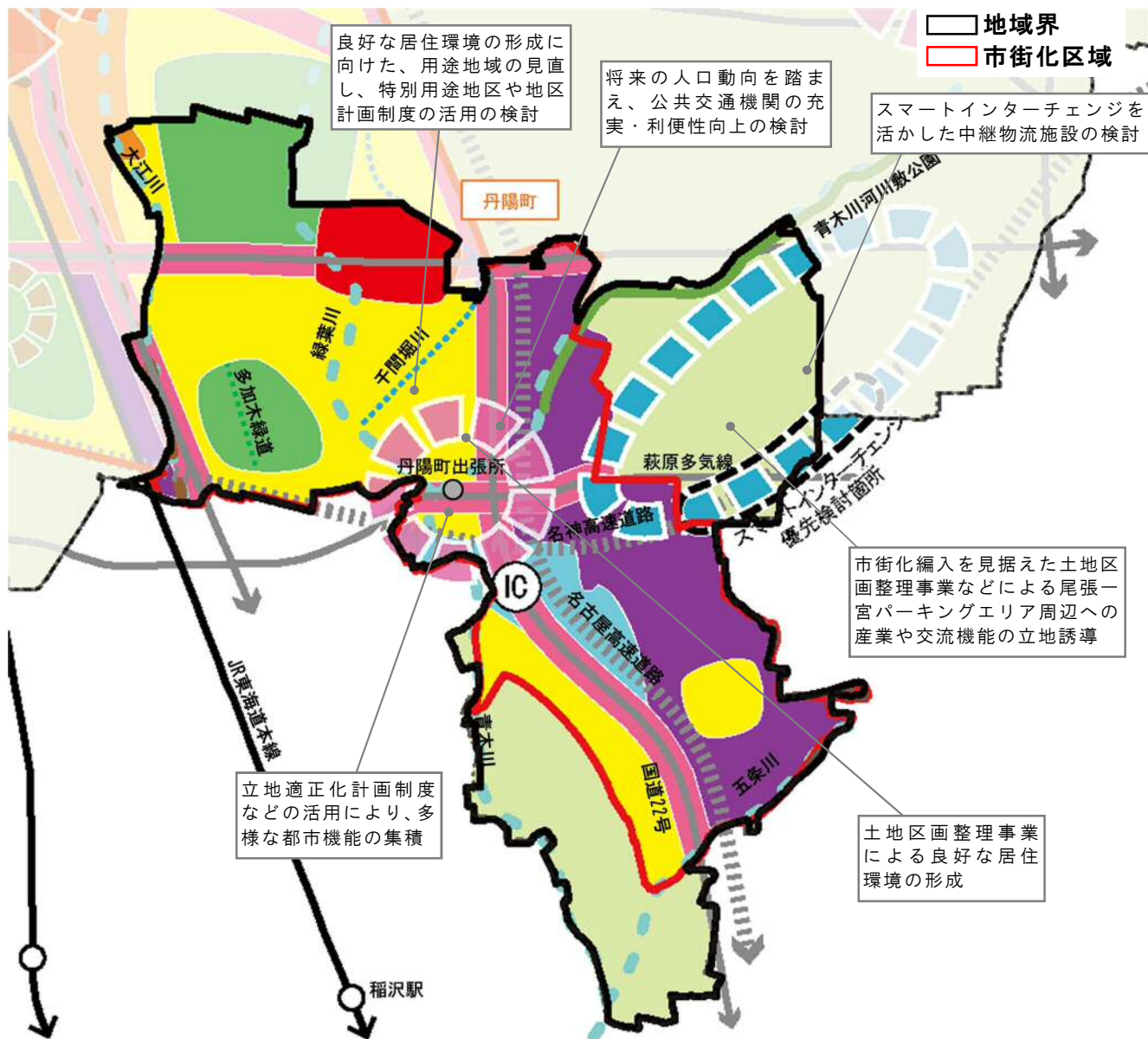
緑・景観・環境の方針

- 産業拠点において、島畑をはじめとした産業景観の調和や継承を図ります。
- 青木川など、主要な河川・水路の環境美化や水辺空間の有効活用を図ります。
- 公共下水道計画区域において未整備区域の整備を進めます。
- 土地区画整理事業により公園・緑地の整備を進めます。
- レクリエーション機能の向上のため、既存公園の施設の更新を進めます。

都市防災の方針

- 河川氾濫などによる浸水リスクの低減に向け、千間堀川の河川改修を進めるとともに、貯留施設の整備を検討します。
- 緊急輸送道路における橋梁の耐震化を検討します。
- 土地区画整理事業による面的基盤整備に併せて、貯留施設の整備を進めます。
- 貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全を図ります。
- 緊急輸送道路沿道の建築物などの耐震化を促進します。
- ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。

【まちづくりの方針図】



＜土地利用の方針＞	＜拠点＞	＜ネットワーク＞
<ul style="list-style-type: none"> 専用住宅地 住宅地 住商混合地 住工混合地 商業業務地 沿道複合地 専用工業地 工業地 集落地・農用地 	<ul style="list-style-type: none"> 都市拠点 副次的都市拠点 地域生活拠点 産業拠点 レクリエーション拠点(大規模公園緑地等) 歴史文化拠点 	<p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域幹線道路 (計画路線調査区間) (計画路線) 幹線道路 <p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道 <p>ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 水と緑のネットワーク 都市と歴史のネットワーク

(5) 地域5：今伊勢町・奥町

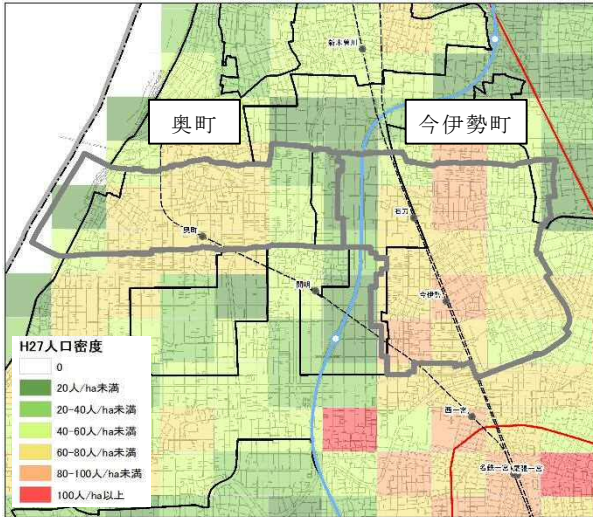
① 地域の現状

■ 人口動向

○2005年(平成17年)から2015年(平成27年)で総人口は約1,400人増加していますが、年少人口や生産年齢人口は減少傾向にあります。

○人口密度は55.8人/haと市平均より高くなっています。

■ 2015年(平成27年)人口密度



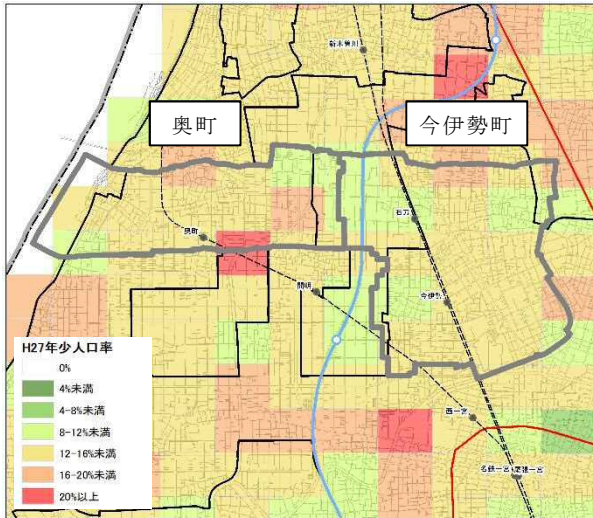
■ 2005年(平成17年)・2015年(平成27年)の人口動向

面積	719.5ha	2005 (H17)	2015 (H27)	増減数	増減率
総人口		38,730	40,153	1,423	103.7%
年少人口		6,121	5,577	-544	91.1%
	割合	地域5 15.8%	13.9%	-	-
生産年齢人口		25,979	24,072	-1,907	92.7%
	割合	地域5 67.1%	60.0%	-	-
老年人口		6,614	9,650	3,036	145.9%
	割合	地域5 17.1%	24.0%	-	-
人口密度		53.8	55.8	-	-
		市平均 32.3	33.1	-	-

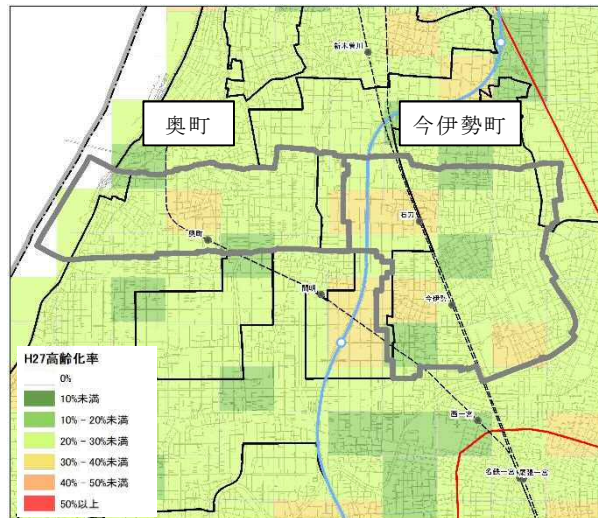
※総人口は年齢不詳を含む

※国勢調査の小地域別人口を基に算出(一部地域で秘匿値あり)

■ 2015年(平成27年)年少人口率



■ 2015年(平成27年)高齢化率



資料：国勢調査

■市民アンケートからみた地域の魅力と問題点

【地域の魅力】

○鉄道駅の利便性が高く、地域内にも多様な都市機能が集積していることから、「生活利便施設への行きやすさ」に関する評価が高くなっています。

【地域の問題点】

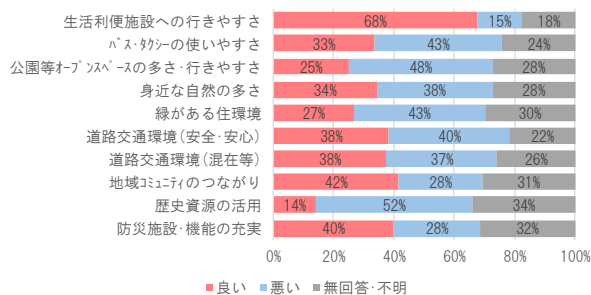
○鉄道の利便性は高いものの、バスの運行は少ないため、「バス・タクシーの使いやすさ」に関する評価が低くなっています。

○今伊勢町においては、公園が少ないため、「公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ」「緑がある住環境」に関する評価が低くなっています。

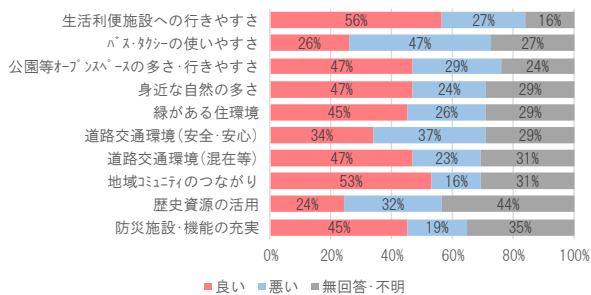
■地域5（今伊勢町・奥町）全体のアンケート結果

		良い	悪い	無回答・不明
生活利便施設への行きやすさ	地域5	64%	19%	17%
	市平均	62%	25%	13%
バス・タクシーの使いやすさ	地域5	31%	44%	25%
	市平均	37%	45%	18%
公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ	地域5	32%	41%	26%
	市平均	42%	38%	20%
身近な自然の多さ	地域5	38%	34%	28%
	市平均	54%	24%	22%
緑がある住環境	地域5	33%	37%	30%
	市平均	45%	31%	24%
道路交通環境(安全・安心)	地域5	37%	39%	24%
	市平均	45%	35%	20%
道路交通環境(混在等)	地域5	41%	32%	27%
	市平均	50%	28%	21%
地域コミュニティのつながり	地域5	46%	24%	31%
	市平均	52%	24%	24%
歴史資源の活用	地域5	18%	45%	37%
	市平均	19%	51%	30%
防災施設・機能の充実	地域5	42%	25%	33%
	市平均	39%	34%	27%

今伊勢町



奥町



資料：「都市計画マスタープラン」「立地適正化計画」策定に向けたアンケート調査（2018.2）

②地域の現状やアンケート調査などからみた地域の主要課題

現状	主要課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道駅周辺を中心とした都市機能の集積に対して暮らしやすいと感じている市民が多く見られます。 	<p>鉄道駅の利便性を活かした人口密度の維持や都市機能の集積により、地域の活性化を図っていくことが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道の利便性は高い地域となっていますが、バスの運行は少ないため、「バス・タクシーの使いやすさ」に関する評価が低くなっています。 	<p>バスを含めた公共交通の利便性向上とともに、安全・安心に移動できる都市空間づくりが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 伝統的地場産業として繊維産業が栄えたため、のこぎり屋根などが生活に身近な地域資源となっていますが、繊維産業は縮小傾向となっています。 	<p>縮小する繊維産業の保全、景観資源としての活用が必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 今伊勢町においては、公園が少ないため、「公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ」「緑がある住環境」に関する評価が低くなっています。 	<p>既存の公園、木曾川、日光川などの身近な自然、地域資源の活用が必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 理論上最大モデルの地震における液状化危険度は、地域の広い範囲で極めて高いと予測されています。 ● 100年に1回程度発生する確率の大雨による木曾川及び日光川の洪水などによる浸水が予測されており、特に地域中央部で深く浸水するとされています。 	<p>地震や河川氾濫による災害リスクがある地域であり、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を強化していくことが必要です。</p> <p>また、面的な基盤整備が行われていない地域においては、安全性や防災性の向上が必要です。</p>

③まちづくりの基本方針

【まちづくりの方向性】

本市の中西部に位置する本地域は、鉄道駅や出張所を核とした市街地が形成されている地域であることから、都市拠点との近接性や鉄道の利便性を活かし、より暮らしやすく、生活の安全性が確保されるまちづくりを進めていきます。

■「持続可能で安全・安心な都市構造の構築」に向けて

○中心市街地との近接性や鉄道の利便性を活かした暮らしやすい居住環境の形成を図ります。

■「都市機能の集積による拠点の強化」に向けて

○2つの地域生活拠点の周辺において、都市機能の集積により生活利便性の向上を図ります。

■「誰もが豊かに暮らし続けることができる生活環境の確保」に向けて

○日常生活に必要な都市機能の充実とともに、公共交通の利便性を活かし、歩いて暮らせるまちづくりを目指します。

■「愛着と誇りの持てる地域文化の形成と継承」に向けて

○エコハウス138、木曾川・野府川をはじめとした水辺環境、地場産業である繊維工場などの特色ある景観、石刀神社や酒見神社といった歴史文化など、豊富な地域資源を活用した地域交流を促進します。

【まちづくりの方針】

今伊勢町

土地利用・市街地整備の方針

- 今伊勢町出張所周辺地区では、立地適正化計画制度などの活用により、商業機能や子育て支援機能などの多様な都市機能の集積を図ります。
- 工業系用途地域の区域において、工業施設が減少し、住宅の立地が進んでいる地域においては、良好な居住環境の形成に向け、用途地域の見直し、特別用途地区や地区計画制度の活用を検討します。
- 鉄道駅周辺地区の市街化調整区域において、市街化区域への編入の検討や、地区計画制度を活用した良好な居住環境の形成を推進します。

道路・公共交通などの方針

- 歩きやすい環境づくりや自転車走行環境の改善に向け、歩道のバリアフリー化を進めるとともに、一宮市自転車活用推進計画に基づく自転車専用通行帯の整備などを進めます。
- バス運行情報の提供などにより利用を促進し、路線バス及びコミュニティバスの維持を図ります。

緑・景観・環境の方針

- のこぎり屋根などの特徴ある建築物、また岐阜街道に沿って残された古い民家などの景観保全と有効活用を検討します。
- 日光川など、主要な河川・水路の環境美化や水辺空間の有効活用を図ります。
- レクリエーション機能の向上のため、既存公園の施設の更新を進めます。

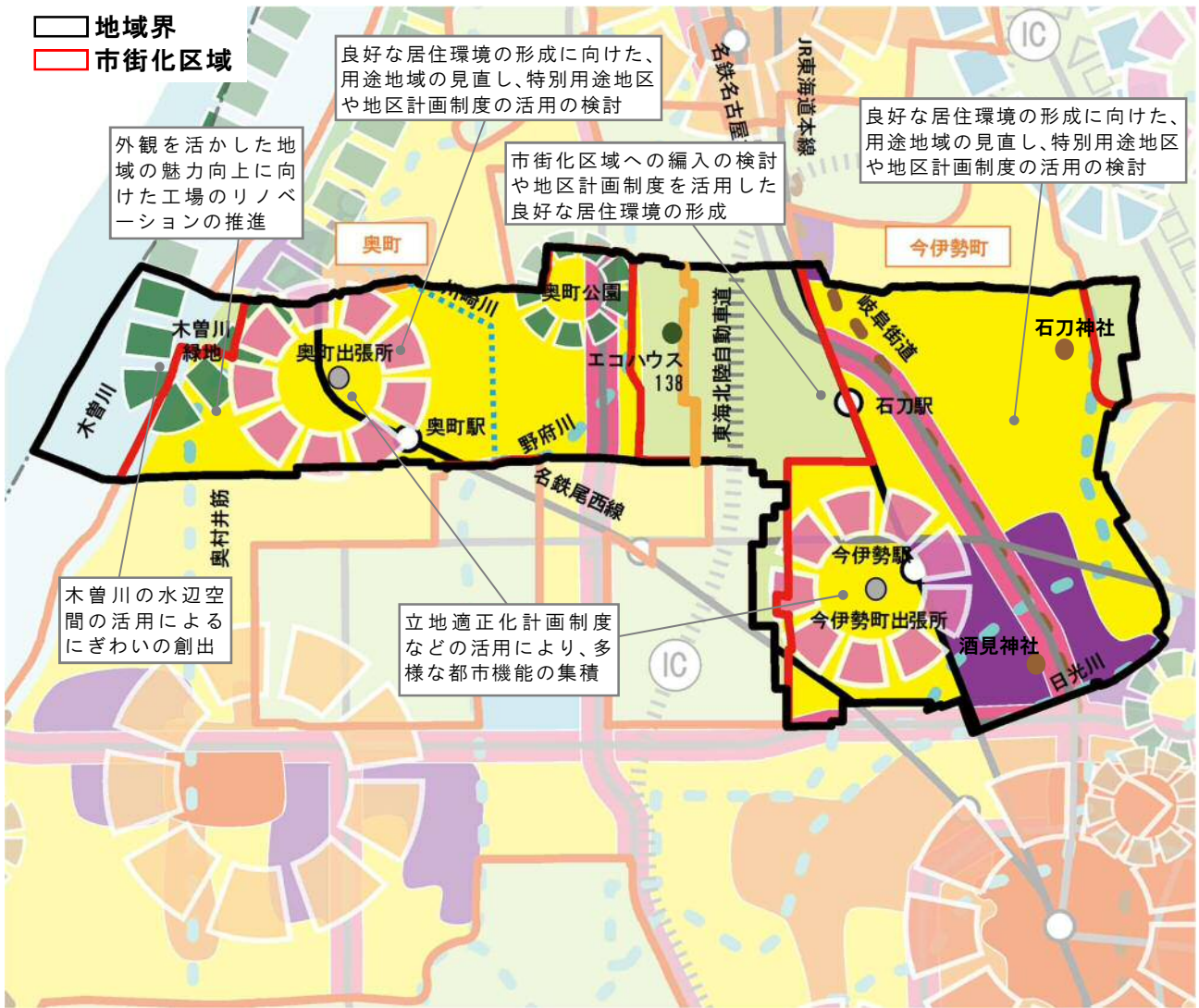
都市防災の方針

- 面的未整備地区における防災性・安全性の向上に向けて、狭あい道路の解消を検討します。
- 貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全を図ります。
- 緊急輸送道路沿道の建築物などの耐震化を促進します。
- ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。

【まちづくりの方針】

奥町	
土地利用・市街地整備の方針	<ul style="list-style-type: none">○奥町出張所周辺地区では、立地適正化計画制度などの活用により、商業機能や子育て支援機能などの多様な都市機能の集積を図ります。○工業系用途地域の区域において、工業施設が減少し、住宅の立地が進んでいる地域においては、良好な居住環境の形成に向け、用途地域の見直し、特別用途地区や地区計画制度の活用を検討します。
道路・公共交通などの方針	<ul style="list-style-type: none">○バス運行情報の提供などにより利用を促進し、コミュニティバスの維持を図ります。
緑・景観・環境の方針	<ul style="list-style-type: none">○奥村井筋沿線など、繊維産業のまちの面影を残すのこぎり屋根工場や蔵などの外観を活かした地域の魅力向上に向け、工場のリノベーションを推進します。○木曽川など、主要な河川・水路の環境美化や水辺空間の有効活用を図ります。○ミズベリング138による木曽川の水辺空間の活用により、にぎわいの創出を図ります。○レクリエーション機能の向上のため、既存公園の施設の更新を進めます。
都市防災の方針	<ul style="list-style-type: none">○河川氾濫などによる浸水リスクの低減に向け、川崎川の河川改修を進めるとともに、貯留施設の整備を進めます。○貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全を図ります。○緊急輸送道路沿道の建築物などの耐震化を促進します。○ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。

【まちづくりの方針図】



＜土地利用の方針＞	＜拠点＞	＜ネットワーク＞
<ul style="list-style-type: none"> 専用住宅地 住宅地 住商混合地 住工混合地 商業業務地 沿道複合地 専用工業地 工業地 集落地・農用地 	<ul style="list-style-type: none"> 都市拠点 副次的都市拠点 地域生活拠点 産業拠点 レクリエーション拠点(大規模公園緑地等) 歴史文化拠点 	<p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域幹線道路 (計画路線調査区間) (計画路線) 幹線道路 <p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道 <p> 水と緑のネットワーク 都市と歴史のネットワーク </p>

(6) 地域6：大和町・萩原町

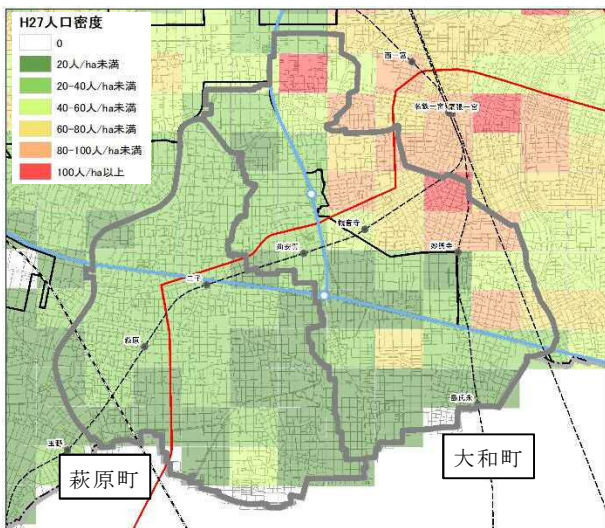
① 地域の現状

■ 人口動向

○2005年(平成17年)から2015年(平成27年)で総人口は約1,500人増加していますが、年少人口や生産年齢人口は減少傾向にあります。

○大和町の一部市街化区域においては人口密度が100人/ha以上と高くなっています。

■ 2015年(平成27年)人口密度



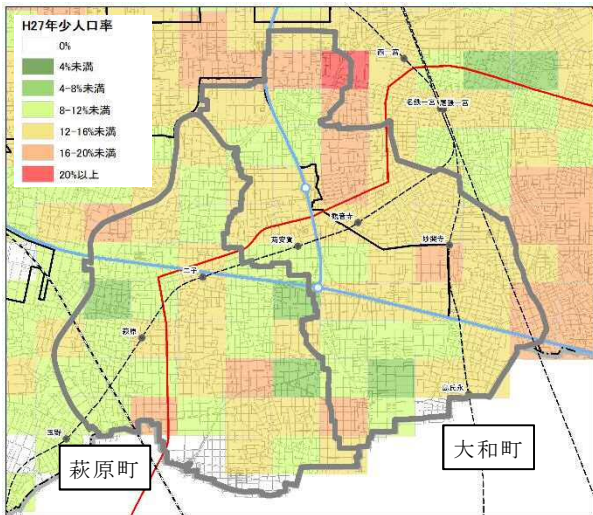
■ 2005年(平成17年)・2015年(平成27年)の人口動向

面積	2005 (H17)		2015 (H27)		増減数	増減率
総人口	58,253		59,799		1,546	102.7%
年少人口	割合	地域6	8,819	7,889	-930	89.5%
	割合	市平均	15.1%	13.2%	-	-
生産年齢人口	割合	地域6	39,383	36,356	-3,027	92.3%
	割合	市平均	67.6%	60.8%	-	-
老年人口	割合	地域6	9,981	15,236	5,255	152.7%
	割合	市平均	17.1%	25.5%	-	-
人口密度	地域6	30.1	30.9	-	-	
	市平均	32.3	33.1	-	-	

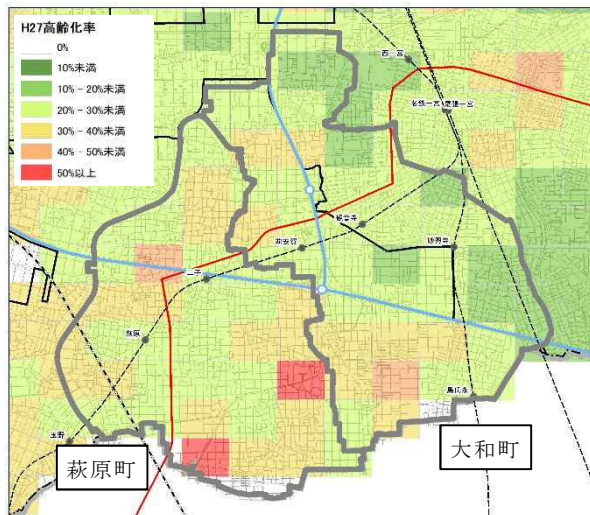
※総人口は年齢不詳を含む

※国勢調査の小地域別人口を基に算出(一部地域で秘匿値あり)

■ 2015年(平成27年)年少人口率



■ 2015年(平成27年)高齢化率



資料：国勢調査

■市民アンケートからみた地域の魅力と問題点

【地域の魅力】

- 市城南部の田園地帯であることから、「身近な自然の多さ」に関する評価が高くなっています。
- 大和町においては、都市拠点に近く、鉄道駅周辺での都市機能の集積も見られることから、「生活利便施設への行きやすさ」に関する評価が高くなっています。

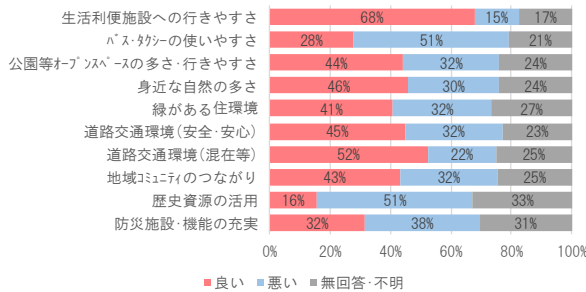
【地域の問題点】

- 鉄道の利便性は高い地域ですが、バスの運行は少ないため、「バス・タクシーの使いやすさ」に関する評価が低くなっています。
- 妙興寺や美濃路などの歴史資源を有するものの、積極的な活用には至っていないため、「歴史資源の活用」に関する評価が低くなっています。

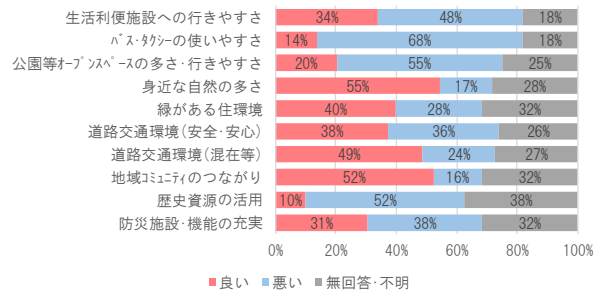
■地域6 (大和町・萩原町) 全体のアンケート結果

		良い	悪い	無回答・不明
生活利便施設への行きやすさ	地域6	57%	25%	18%
	市平均	62%	25%	13%
バス・タクシーの使いやすさ	地域6	23%	57%	20%
	市平均	37%	45%	18%
公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ	地域6	37%	39%	24%
	市平均	42%	38%	20%
身近な自然の多さ	地域6	49%	26%	25%
	市平均	54%	24%	22%
緑がある住環境	地域6	41%	31%	28%
	市平均	45%	31%	24%
道路交通環境(安全・安心)	地域6	42%	34%	24%
	市平均	45%	35%	20%
道路交通環境(混在等)	地域6	51%	23%	26%
	市平均	50%	28%	21%
地域コミュニティのつながり	地域6	46%	27%	27%
	市平均	52%	24%	24%
歴史資源の活用	地域6	14%	52%	34%
	市平均	19%	51%	30%
防災施設・機能の充実	地域6	31%	38%	31%
	市平均	39%	34%	27%

大和町



萩原町



資料：「都市計画マスタープラン」「立地適正化計画」策定に向けたアンケート調査（2018.2）

②地域の現状やアンケート調査などからみた地域の主要課題

現状	主要課題
<ul style="list-style-type: none">● 鉄道駅周辺を中心とした都市機能の集積に対して暮らしやすいと感じている市民が多く見られます。	鉄道駅の利便性を活かした人口密度の維持や都市機能の集積により、地域の活性化を図っていく必要があります。
<ul style="list-style-type: none">● 鉄道の利便性は高い地域となっていますが、バスの運行は少ないため、「バス・タクシーの使いやすさ」に関する評価が低くなっています。	バスを含めた公共交通の利便性向上とともに、安全・安心に移動できる都市空間づくりが必要です。
<ul style="list-style-type: none">● 市域南部の田園地帯であることから「身近な自然の多さ」に関する評価が高くなっています。	農地や自然環境などとの調和のとれた、ゆとりある良好な居住環境を維持していく必要があります。
<ul style="list-style-type: none">● 妙興寺や美濃路などの歴史資源を有するものの、積極的な活用には至っていないため、「歴史資源の活用」に関する評価が低くなっています。	日光川・萬葉公園、妙興寺・美濃路など、豊富な地域資源の活用が必要です。
<ul style="list-style-type: none">● 理論上最大モデルの地震における液状化危険度は、地域の広い範囲で極めて高いと予測されています。● 100年に1回程度発生する確率の大雨による木曾川及び日光川の洪水などによる浸水が予測されており、特に地域南西部で深く浸水するとされています。	地震や河川氾濫による災害リスクがある地域であり、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を強化していく必要があります。

③まちづくりの基本方針

【まちづくりの方向性】

本市の南部に位置する本地域は、鉄道の利便性を活かした居住環境の形成と、田園環境や萩原商店街（美濃路萩原宿）、妙興寺といった歴史・文化が共存するまちづくりを進めていきます。

■「持続可能で安全・安心な都市構造の構築」に向けて

○鉄道などの公共交通を軸とした利便性の高い居住環境の形成を図ります。

■「都市機能の集積による拠点の強化」に向けて

○地域生活拠点である大和町出張所周辺において、都市機能の集積により生活利便性の向上を図ります。

○地域生活拠点である萩原町出張所周辺において、日常生活に必要な都市機能の確保により、地域コミュニティの維持を図ります。

○一宮稲沢北インターチェンジ周辺において、すでに地区計画を定めた区域を軸とし、周辺環境と調和した産業拠点の形成及び保持に努めます。

■「誰もが豊かに暮らし続けることができる生活環境の確保」に向けて

○南部に広がる一団性の高い農用地のスプロール的市街化を抑制するとともに、農業の担い手確保などの施策と連携した環境保全を図ります。

■「愛着と誇りの持てる地域文化の形成と継承」に向けて

○日光川・萬葉公園、妙興寺・美濃路などの自然や歴史・文化的資源を結ぶネットワークの形成、周遊性の向上や歴史的資源を活かした地域交流を促進します。

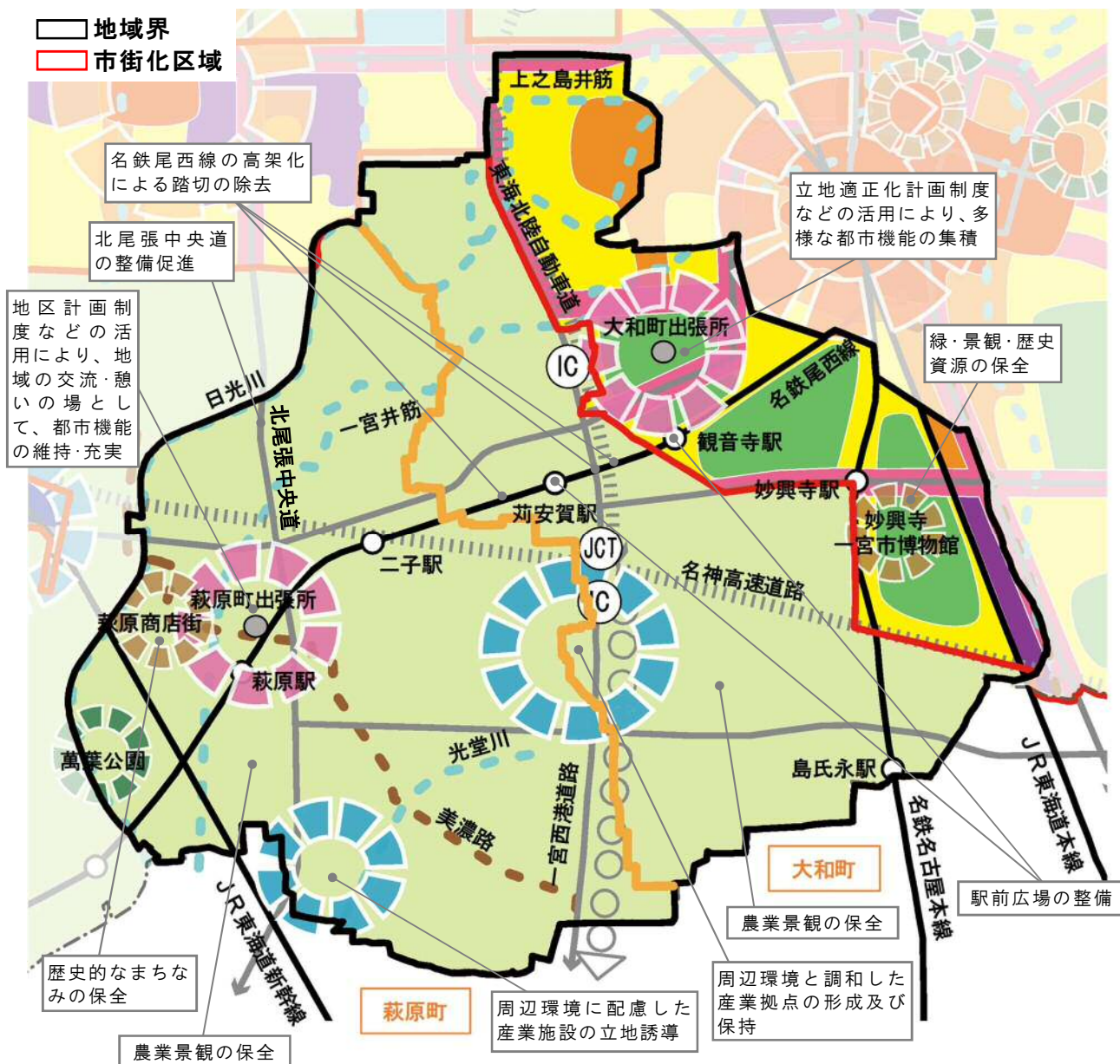
【まちづくりの方針】

大和町	
土地利用・市街地整備の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○大和町出張所周辺地区では、立地適正化計画制度などの活用により、商業機能や子育て支援機能などの多様な都市機能の集積を図ります。 ○一宮稲沢北インターチェンジ周辺において、すでに地区計画を定めた区域を軸とし、周辺環境と調和した産業拠点の形成及び保持に努めます。 ○鉄道駅周辺地区の市街化調整区域において、市街化区域への編入の検討や、地区計画制度を活用した良好な居住環境の形成を推進します。
道路・公共交通などの方針	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車交通の円滑化に向け、名鉄尾西線の高架化による踏切の除去を促進します。 ○歩きやすい環境づくりや自転車走行環境の改善に向け、歩道のバリアフリー化を進めるとともに、一宮市自転車活用推進計画に基づく自転車専用通行帯の整備などを進めます。 ○バス運行情報の提供などにより利用を促進し、路線バス及びコミュニティバスの維持を図ります。 ○鉄道駅（観音寺駅・苅安賀駅）における交通結節機能の充実に向け、駅前広場の整備を進めます。
緑・景観・環境の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○幹線道路における緑の再生を進めます。 ○妙興寺とその社寺林の貴重な緑・景観・歴史資源の保全を図ります。 ○市街化調整区域において、田園地域の広がりのある農業景観の保全を図ります。 ○日光川など、主要な河川・水路の環境美化や水辺空間の有効活用を図ります。 ○公共下水道計画区域において未整備区域の整備を進めます。 ○レクリエーション機能の向上のため、既存公園の施設の更新を進めます。
都市防災の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○浸水リスクの低減に向け、貯留施設の整備を進めます。 ○貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全を図ります。 ○緊急輸送道路沿道の建築物などの耐震化を促進します。 ○ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。

【まちづくりの方針】

萩原町	
土地利用・市街地整備の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○萩原町出張所周辺地区では、地区計画制度などの活用により、地域の交流・憩いの場として、都市機能の維持・充実を図ります。 ○萩原工業団地周辺地区において、周辺環境に配慮した産業施設の立地誘導を図ります。 ○鉄道駅周辺地区において、地区計画制度を活用した良好な居住環境の形成を推進します。 ○集落地におけるゆとりある居住環境の形成に向け、一団のまとまりのある農地を保全するとともに、地区計画制度の活用による良好な居住環境と景観の保全を図ります。
道路・公共交通などの方針	<ul style="list-style-type: none"> ○尾張地域の骨格となる北尾張中央道の整備を促進します。 ○バス運行情報の提供などにより利用を促進し、コミュニティバスの維持を図ります。
緑・景観・環境の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○本地域の特色ある景観資源を活かした歩きたくなるまちの形成に向け、萩原商店街（美濃路萩原宿）の歴史的なまちなみの保全を図ります。 ○田園地域の広がりのある農業景観の保全を図ります。 ○日光川、光堂川など、主要な河川・水路の環境美化や水辺空間の有効活用を図ります。 ○公共下水道計画区域において未整備区域の整備を進めます。 ○レクリエーション機能の向上のため、既存公園の施設の更新を進めます。
都市防災の方針	<ul style="list-style-type: none"> ○河川氾濫などによる浸水リスクの低減に向け、導水路の整備を進めます。 ○貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全を図ります。 ○緊急輸送道路沿道の建築物などの耐震化を促進します。 ○ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。

【まちづくりの方針図】



＜土地利用の方針＞	＜拠点＞	＜ネットワーク＞
<ul style="list-style-type: none"> 専用住宅地 住宅地 住商混合地 住工混合地 商業業務地 沿道複合地 専用工業地 工業地 集落地・農用地 	<ul style="list-style-type: none"> 都市拠点 副次的都市拠点 地域生活拠点 産業拠点 レクリエーション拠点(大規模公園緑地等) 歴史文化拠点 	<p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域幹線道路 (計画路線調査区間) (計画路線) 幹線道路 <p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道 <p>水と緑のネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 水と緑のネットワーク 都市と歴史のネットワーク

(7)地域7：西成・浅井町・千秋町

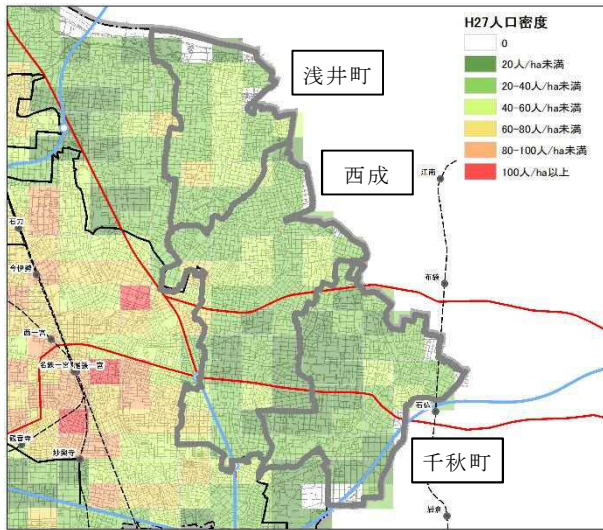
①地域の現状

■人口動向

○2005年(平成17年)から2015年(平成27年)で総人口は約350人増加していますが、年少人口や生産年齢人口は減少傾向にあります。

○他地区に比較して生産年齢人口の減少率が大きく、高齢化率は28.7%と本市で最も高くなっています。

■2015年(平成27年)人口密度



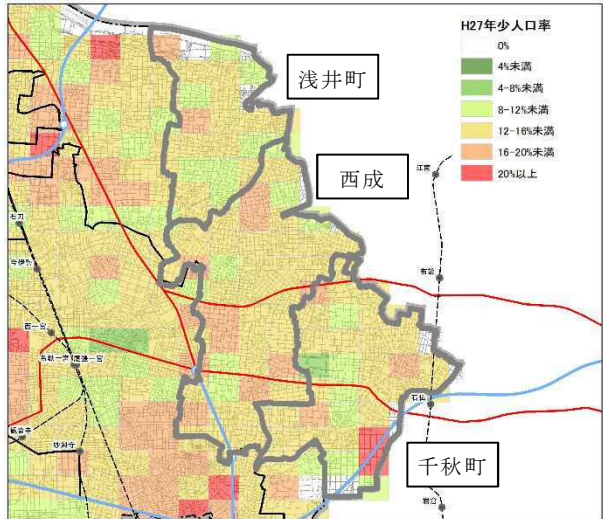
■2005年(平成17年)・2015年(平成27年)の人口動向

面積	2005 (H17)		2015 (H27)		増減数	増減率
総人口	71,178	71,530	352	100.5%		
年少人口	10,531	9,906	-625	94.1%		
	割合	地域7 14.8%	13.8%	-	-	
		市平均 15.3%	13.9%	-	-	
生産年齢人口	46,477	40,830	-5,647	87.8%		
	割合	地域7 65.3%	57.1%	-	-	
		市平均 66.3%	59.8%	-	-	
老年人口	14,136	20,543	6,407	145.3%		
	割合	地域7 19.9%	28.7%	-	-	
		市平均 18.3%	25.5%	-	-	
人口密度	地域7	27.7	27.8	-	-	
	市平均	32.3	33.1	-	-	

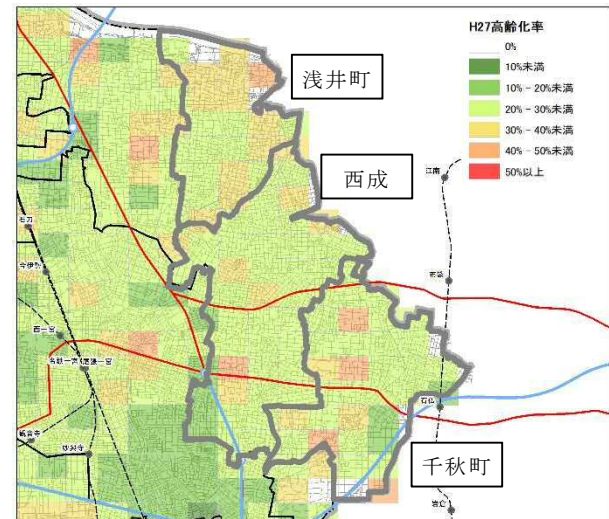
※総人口は年齢不詳を含む

※国勢調査の小地域別人口を基に算出(一部地域で秘匿値あり)

■2015年(平成27年)年少人口率



■2015年(平成27年)高齢化率



資料：国勢調査

■市民アンケートからみた地域の魅力と問題点

【地域の魅力】

○市域東部に広がる田園地帯でもあることから、「身近な自然の多さ」や「緑ある住環境」に関する評価が高くなっています。

【地域の問題点】

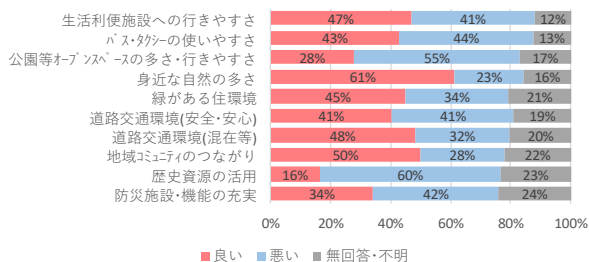
○商業施設の立地が少ないため、「生活利便施設への行きやすさ」は他地域と比べると評価は低くなっています。

○浅井町地域の古墳群をはじめ、浅井山公園、一宮地域文化広場などが存在するものの、これらを十分に活かしきれていないため、「歴史資源の活用」に関する評価が低くなっています。

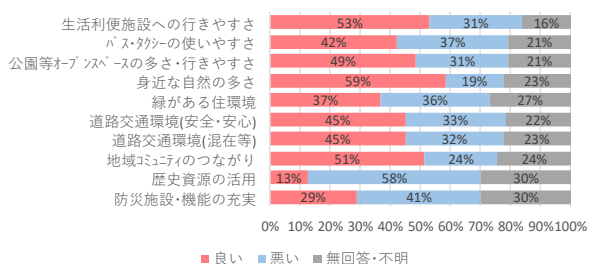
■地域7（西成・浅井町・千秋町）全体のアンケート結果

		良い	悪い	無回答・不明
生活利便施設への行きやすさ	地域7	49%	37%	14%
	市平均	62%	25%	13%
バス・タクシーの使いやすさ	地域7	39%	46%	15%
	市平均	37%	45%	18%
公園等オープンスペースの多さ・行きやすさ	地域7	35%	47%	18%
	市平均	42%	38%	20%
身近な自然の多さ	地域7	64%	19%	17%
	市平均	54%	24%	22%
緑がある住環境	地域7	47%	33%	21%
	市平均	45%	31%	24%
道路交通環境(安全・安心)	地域7	46%	36%	18%
	市平均	45%	35%	20%
道路交通環境(混在等)	地域7	48%	31%	21%
	市平均	50%	28%	21%
地域コミュニティのつながり	地域7	54%	25%	21%
	市平均	52%	24%	24%
歴史資源の活用	地域7	16%	60%	25%
	市平均	19%	51%	30%
防災施設・機能の充実	地域7	34%	41%	25%
	市平均	39%	34%	27%

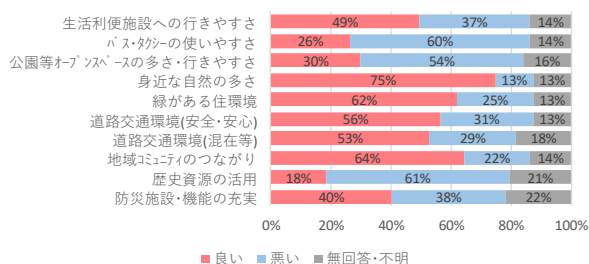
西成



浅井町



千秋町



資料：「都市計画マスタープラン」「立地適正化計画」策定に向けたアンケート調査（2018.2）

②地域の現状やアンケート調査などからみた地域の主要課題

現状	主要課題
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化率は 28.7%と本市で最も高くなっています。 ● 商業施設の立地が少ないため、「生活利便施設への行きやすさ」は他地域と比べると評価は低くなっています。 	<p>高齢化が進行するなかで、過度な自動車依存を抑制し、歩いて暮らしやすい環境づくりを図っていくことが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 市域東部に広がる田園地帯でもあることから、「身近な自然の多さ」や「緑がある住環境」に関する評価が高くなっています。 	<p>農地や自然環境などとの調和のとれた、ゆとりある良好な居住環境を維持していくことが必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 浅井町地域の古墳群をはじめ、浅井山公園、一宮地域文化広場などが存在するものの、これらを十分に活かさきれていないため、「歴史資源の活用」に関する評価が低くなっています。 	<p>既存の公園、一宮地域文化広場、社寺林などの身近な自然、歴史・文化的資源の活用が必要です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 理論上最大モデルの地震における液状化危険度は、南西部で極めて高いと予測される地域が一部あるものの、地域の広い範囲で低いまたは極めて低いと予測されています。 ● 100年に1回程度発生する確率の大雨により、木曾川及び日光川・新川の洪水などによる浸水が予測されており、特に地域北部で深く浸水するとされています。 	<p>地震や河川氾濫による災害リスクがある地域であり、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を強化していくことが必要です。</p>

③まちづくりの基本方針

【まちづくりの方向性】

本市の東部に位置する本地域は、古くからの集落と河川・水路や農地が共生する地域であることから、地域生活拠点を核とした、のどかで生活利便性が高いまちづくりを進めていきます。

■「持続可能で安全・安心な都市構造の構築」に向けて

○既存の農村集落縁辺部での新たな住宅開発を抑制し、地域生活拠点周辺などの利便性の高い地域などへの人口集約を図ります。

■「都市機能の集積による拠点の強化」に向けて

○3つの地域生活拠点周辺において、日常生活に必要な都市機能の確保により、地域コミュニティの維持を図ります。

○尾張一宮パーキングエリア周辺において、スマートインターチェンジを活用した土地区画整理事業などの面的基盤整備により、産業や交流機能の立地誘導を図ります。

○スマートインターチェンジ周辺において、ストック効果を活用した中継物流施設の立地を検討します。

■「誰もが豊かに暮らし続けることができる生活環境の確保」に向けて

○一団性の高い農用地のスプロール的市街化を抑制するとともに、農業の担い手確保などの施策と連携した環境保全を図ります。

■「愛着と誇りの持てる地域文化の形成と継承」に向けて

○拠点的な公園や集落地内のオープンスペース、社寺林など、身近な農地、緑地、歴史・文化などを結ぶネットワークの形成、周遊性の向上や地域資源を活かした地域交流を促進します。

【まちづくりの方針】

西成	
土地利用・市街地整備の方針	
<ul style="list-style-type: none"> ○西成出張所周辺地区では、地区計画制度などの活用により、地域の交流・憩いの場として、都市機能の維持・充実を図ります。 ○集落地におけるゆとりある居住環境の形成に向け、一団のまとまりのある農地を保全するとともに、地区計画制度の活用による良好な居住環境と景観の保全を図ります。 ○名岐道路の沿線地区において、ストック効果を活かした土地利用を検討します。 	
道路・公共交通などの方針	
<ul style="list-style-type: none"> ○歩きやすい環境づくりや自転車走行環境の改善に向け、歩道のバリアフリー化を進めるとともに、一宮市自転車活用推進計画に基づく自転車専用通行帯の整備などを進めます。 ○地区内の交通安全性の向上に向け、今伊勢三ツ井線の整備を促進します。 ○北尾張中央道及び国道22号の無電柱化を促進します。 ○バス運行情報の提供などにより利用を促進し、路線バス及びコミュニティバスの維持を図ります。 	
緑・景観・環境の方針	
<ul style="list-style-type: none"> ○本地域の特色ある景観資源を活かした歩きたくなるまちの形成に向け、千間堀川などからなる水辺景観の保全を図ります。 ○田園地域の広がりのある農業景観の保全を図ります。 ○日光川など、主要な河川・水路の環境美化や水辺空間の有効活用を図ります。 ○公共下水道計画区域において未整備区域の整備を進めます。 ○本地域の歴史や文化に関する情報発信や、広域的な交流促進に向け、一宮地域文化広場を活用します。 ○レクリエーション機能の向上のため、既存公園の施設の更新を進めます。 	
都市防災の方針	
<ul style="list-style-type: none"> ○浸水リスクの低減に向け、千間堀川などの改修を進めるとともに、貯留施設の整備を検討します。 ○貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全を図ります。 ○緊急輸送道路沿道の建築物などの耐震化を促進します。 ○ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。 	

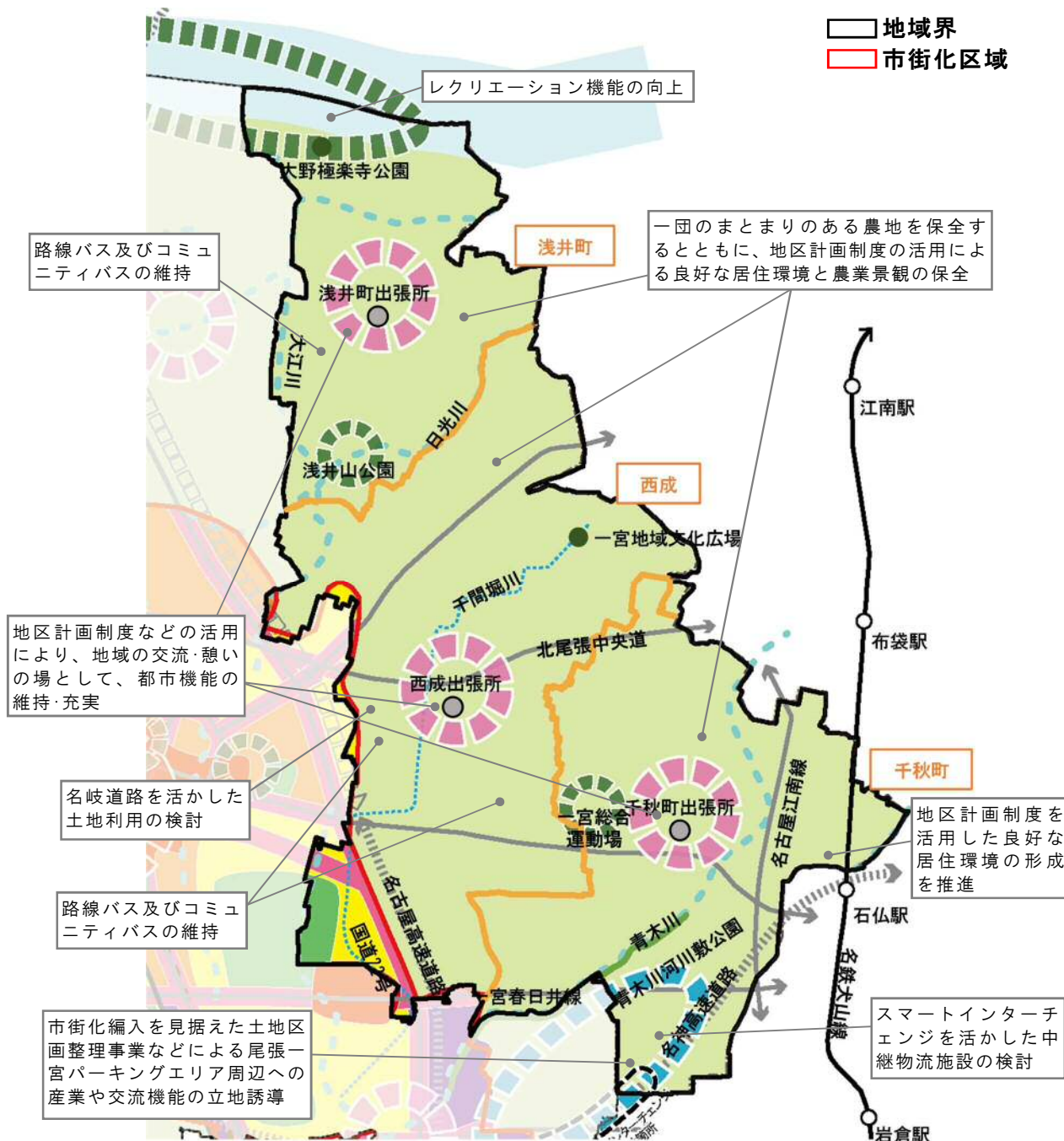
【まちづくりの方針】

浅井町	
土地利用・市街地整備の方針	<ul style="list-style-type: none">○浅井町出張所周辺地区では、地区計画制度などの活用により、地域の交流・憩いの場として、都市機能の維持・充実を図ります。○集落地におけるゆとりある居住環境の形成に向け、一団のまとまりのある農地を保全するとともに、地区計画制度の活用による良好な居住環境と景観の保全を図ります。
道路・公共交通などの方針	<ul style="list-style-type: none">○バス運行情報の提供などにより利用を促進し、路線バス及びコミュニティバスの維持を図ります。
緑・景観・環境の方針	<ul style="list-style-type: none">○本地域の特色ある景観資源を活かした歩きたくなるまちの形成に向け、木曽川・浅井山公園の水辺環境や木曽川堤桜をはじめとした木曽川の眺望景観の保全を図ります。○田園地域の広がりのある農業景観の保全を図ります。○ミズベリング138による木曽川の水辺空間の活用により、にぎわいの創出を図ります。○レクリエーション機能の向上のため、既存公園の施設の更新を進めます。
都市防災の方針	<ul style="list-style-type: none">○浸水リスクの低減に向け、排水機場の改修を進めます。○貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全を図ります。○緊急輸送道路沿道の建築物などの耐震化を促進します。○ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。

【まちづくりの方針】

千秋町	
土地利用・市街地整備の方針	
	<ul style="list-style-type: none"> ○千秋町出張所周辺地区では、地区計画制度などの活用により、地域の交流・憩いの場として、都市機能の維持・充実を図ります。 ○鉄道駅周辺地区において、地区計画制度を活用した良好な居住環境の形成を推進します。 ○集落地におけるゆとりある居住環境の形成に向け、一団のまとまりのある農地を保全するとともに、地区計画制度の活用による良好な居住環境と景観の保全を図ります。 ○尾張一宮パーキングエリア周辺において、スマートインターチェンジを活用した土地区画整理事業などの面的基盤整備により、産業や交流機能の立地誘導を図ります。 ○スマートインターチェンジ周辺において、ストック効果を活用した中継物流施設の立地を検討します。
道路・公共交通などの方針	
	<ul style="list-style-type: none"> ○都市間交通の円滑な処理に向け、名古屋江南線や一宮春日井線の整備を促進します。 ○北尾張中央道の無電柱化を促進します。 ○バス運行情報の提供などにより利用を促進し、路線バス及びコミュニティバスの維持を図ります。
緑・景観・環境の方針	
	<ul style="list-style-type: none"> ○本地域の特色ある景観資源を活かした歩きたくなるまちの形成に向け、青木川などからなる水辺景観の保全を図ります。 ○田園地域の広がりのある農業景観の保全を図ります。 ○青木川など、主要な河川・水路の環境美化や水辺空間の有効活用を図ります。 ○公共下水道計画区域において未整備区域の整備を進めます。
都市防災の方針	
	<ul style="list-style-type: none"> ○浸水リスクの低減に向け、貯留施設の整備を検討します。 ○貯水機能などの防災機能を有する優良農地の保全を図ります。 ○緊急輸送道路沿道の建築物などの耐震化を促進します。 ○ハザードマップなどの災害に関する情報提供や避難訓練の徹底などの防災・減災対策を行います。

【まちづくりの方針図】



＜土地利用の方針＞	＜拠点＞	＜ネットワーク＞
<ul style="list-style-type: none"> 専用住宅地 住宅地 住商混合地 住工混合地 商業業務地 沿道複合地 専用工業地 工業地 集落地・農用地 	<ul style="list-style-type: none"> 都市拠点 副次的都市拠点 地域生活拠点 産業拠点 レクリエーション拠点（大規模公園緑地等） 歴史文化拠点 	<p>道路</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域幹線道路 (計画路線調査区間) (計画路線) 幹線道路 <p>公共交通</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄道 <p>水と緑のネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 水と緑のネットワーク 都市と歴史のネットワーク

序論
都市計画マスタープランについて

第1章
都市の現況と課題

第2章
全体構想

第3章
地域別構想

第4章
計画の推進方策

資料編